WASON
HQ
1104
J79+

女學雜誌

一冊六錢
當府内無郵税

版權所有
各土曜日出版

明治廿二年(第百四拾九號)二月十六日發

社説
女子と宗教第六(儒教)

論説
英米女子高等教育大勢(け、うさき)〇飲食物の説附
酒と煙草の害(其五)(津田仙)

批評
美妙齋主人の「胡蝶」

叢話
憲法發布を祝したる歌〇女子亦た公事に注意すべし〇貧にして且つ卑とし〇女子が公事に關係する第一着手〇世界の三友(石橋忍月)〇プルータス

佳傳
破鏈談第三回(一男を失ひて一女を得たり)

小説
理想紳士第三回(月の舍しのぶ)

寄書
文苑(四)(鈴木弘恭大人撰)

新報
憲法發布の祝式に於ける女姓〇之に付て尤も悲しむべき事〇赤十字社に娼妓の加盟を許さず〇憲法〇道徳と罪悪と自殺〇東京府會と黴毒撿査〇普連士女學校〇富岡製糸場の近況〇外數件

外報
印度の聖教德化會〇印度國賣淫條例〇外數件

小供談

附録
百人一首講義〇裁針講義〇女子讀本〇經濟學

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 149. February 16th, 1889.

EDITORIAL:— Woman and Religion. No. VI

LEADING ARTICLES:— The movement of Woman's High Education in Western Countries. by Mr, K, Usaki. Food and Drink. (Tobacco and Alcohol). by Mr. S. Tsuda.

CRITICAL NOTES:— Bimyosai's "Kocho".

MISCELLANIES:— "A New Song for the National Constitution". "Woman and Social Matters". "Poor and Noble." "Woman's first step toward the Society." "Three Friends in the World".

BIOGRAPHIES:— "Breaking the Fetters".

NOVELS:— "The Ideal Beau

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

女學雜誌は日本の女性を代表す、日本の女性は女學雜誌の如くなり、亦如くなるべし、亦如くならざる可らず。日本の女性を知らんと欲せば女學雜誌を見よ、之に愛せられんと欲せば女學雜誌に愛せられよ。女學雜誌は日本婦人の分身にして、亦た其の教師、案内者、相談相手なるなり。

●珊瑚の珠　（第九十二回）

人にあひてあしたによみてつかはしける　在原業平

寐ぬるよの夢をはかなみまどろめはいやはかなくも成まさるかな。

かすがのまつりにまかれりけるときに物見に出たりける女のもとに家を尋ねてつかはしける　壬生忠岑

春日野のゆきまを分ておひ出くるくさのはつかに見へし君はも。

龍門にまうでゝ瀧のもとにてよめる　伊勢

たちぬはぬ衣きし人もなきものをなに山ひめの布さらすらん

はつせにまうづる道にならの京にやどれりけるとき　二條

人ふるすさとをいとひてこしかどもならの都もうき名成けり

小野小町

あまのすむ里のしるべにあらなくにうらみんとのみ人のいふらん。

源宗干

つれもなくなり行人の言の葉ぞあきよりさきの紅葉なりける

女學雜誌　第百四十九號　明治二十二年二月十六日發兌

社說

○女子と宗敎、

四　儒敎。(下)。

(九)　女性の地位

斯の如くに觀來れば、儒敎に於ける女性の地位何如んは極めて明白に承知せらるゝなり」、蓋し女性が本質は元來男性に劣るものとせられたり、而して好し劣るとせらるゝも劣るが故に更らに敎育すべしとせらるゝに於ては尚ほ之を恕すべし、然るに儒敎は甯に之を劣れりとするのみならず併せて之を敎ゆ可らずと爲せり。而して好し敎ゆ可らずとせらるゝも若し外界の事情に壓れて自然に敎へらるゝの地位に立つことを許さるれば尚ほ或は敎へを受るの場合もあるべし、然るに儒敎は甯に之を敎ゆ可らずとするのみならず併せて之を何事にも敎へられ得まじきの境界に押込めたり。而して儒敎は男子に數婦を娶ることを許しつゝ女性には家外の男子と物言ふことをすら禁制したり。男子には夫々の申分によりて其の妻を去ることを得べしと許しつゝ、女性は一と度び婚したるのち畢生の間決して再たびすべからずとは禁制したり。故に妻は室家に於ては下婢の如くあれ、伉儷に於ては御家來の如くあれ、子に對しては姆の如く護の如くあれよとは敎へたり」。蓋し四書六經は斯の如くに女性を遇したり、孔子は斯の如くに女性に敎へたり、故に凡そ儒敎の正統なる解釋は彼は必らず斯の如くに女性の地位を定めたりとは斷定する也。

(十)　儒敎の影響

然らば則はち古來女性に對したる儒敎の影響は何如ん、是れ尤も公平に論斷すべきもの也」吾人は言ふ固より大ひなる利益を爲したりと、然れども亦た多くの害を爲したり、而して若し今后之を此儘にて行われしめんには其害や實に測る可らざるに至らんとは言ふべし。

凡そ何如なる宗敎道德にても、既に正當の方によりて世に行われたる以上は、此の宗敎道德は必らず當世に幾干の効能を爲したるに相違なしと思ふ。今に至りて此宗敎道德を見るとき固より多くの笑ふべきこともあらん又固より多くの誤まりたる箇條もあらん、左れど彼の時には之にて既に幾多の効能を爲しつる也、吾等成人となりて成人の衣物を着たり、然れども童子の時は語る所ろ童子の如く悟る所ろ童子の如く慮る所

ろ童子の如くありき、此の時に於て吾等が信じたりける宗教は亦た固より童子の如くにてありつる筈なり。竊かに考ふるに、儒教の道德は是れ太平の敎へなり、民をして君に屈服せしむ、此に於て天下太平なり、子をして父に屈服せしむ、此に於て一家太平なり、妻をして夫に屈服せしむ、此に於いて伉儷太平なり、故に若し世は進化することなく、外國の關係に面倒もなく、人は鼓腹していつ迄も唐虞三代の氣樂に暮し得ることにてあらば、思ふに儒教ほど人類に相應したる宗教はあらじ。彼は進歩せざる世の中の宗教なり、自由を言はぬ世の中の宗教なり、勝手氣儘をしたがらぬ世の中の宗教なり。天子南面して正直に日蝕月蝕に恐懼し、君臣父子それ〴〵に分を守りて敢て上を犯さず、上下交も〳〵沈滯汚澱、たとへば洋子江の水の波もなく船も動かさずに流るゝが如くにてあらば、儒教は實に全世界の大ひなる羅針盤ともなる也、然るに恨むらくは世の中の實に左樣ならざるを如何せん。

左れど或る時には儒教は固より効能ありし也、即はち戰國の時の如く、若しくは開化日進の時代の如きにはいざ知らず、彼の封建時代の万事万物汚澱沈滯したる場合に於ては、儒教は實に世の中の重しとなりていよ〳〵國家の太平を維持したるなり、吾人若し之を以て利益あることと云ひ得たらんには、即はち儒教の世に盡したりし効能は亦た大ひなる利益にてありし也」。故に儒教が女性の上に盡したるの影響も亦た大抵之に類す、彼は女性をして實に愼しみ深く、忍耐づよく、氣根深く、夫一人に貞節にて、尤も貞實、極めて生意氣ならず、スハと云はゞ懷劍を拔いて自害するほどの氣性を吹込たり。故に吾人にして若し旦那樣たることを得意とし、女性に奉公せらるゝことを有がたがり、甚はだ忠實なる一人の家來を伴ふとを名譽とし、万事たゞ唯々として屈服して吳れる所ろの細君あるを幸福とし、ミルトンと共に歌つて自分等男性はイーブを氣取り、

"He for God only: She for God in him"—

「神はたゞ余が神なり、卿が神は即はち余なり」と云ふとき、吾妻はエバの如く甚はだしとやかに、

"God is thy law; thou, mine; to know no more
Is woman's happiest knowledge and her praise."

「郞が律法は神なるべし、妾が律法は郞なり、たゞ郞を知りて其他を知らぬぞ、女性が最幸の智識にて且つ最大の譽れにて侍る」と答へ吳る如き御婦人あらんことを望まば、吾人は實に儒教を以て尤も善き女子教育者と爲すべし。然れども如此く

望むは是れ豈に男性が甚大なる我慾にあらずや。凡そ人に仕ふるよりは仕へらるゝが樂なり、主人を持つよりも同輩を持つよりも極めて忠義なる家來を持つが一身上の便利なり、男子にして儒教的の妻を可なりとするは必竟只是れあらんのみ、豈に是れ甚大なる不親切にあらずや」而して男子が斯の如くに我慾不親切なるは其の災はひ實に男子彼自身の上に落るものあり、抑そも眞成に靈魂を發達するものは、先づ已れが靈魂を重んずると共に亦た人の靈魂をも重んず、故に妻をして屈服せしむるものは、已れ出でゝは亦た人に屈服するもの也、苟くも妻をして一個の人類、同等なる人類として特立せしめざるときは、其の良人亦決して自由ある人類として外に特立することを敢てせざるもの也。

抑そも人の拜すべきは上帝の外になし、ビスマークは獨逸國に於て恐るゝものは只だ神のみと云へり、左れば眞とに上帝をのみ拜するものは亦た己れが人より拜せらるゝとに堪ゆる能はず、昔しヨハネは彼の膝行して己を拜せんとするものを禁じたりしが、大凡そ眞とに特立潔守して人類の權を重んずるものは皆な斯の如し。故に世上の我慾不親切なる男子が若し女性の屈服するを見て喜ぶあらば、其人や實に未だ自由の極味を知らざるの徒なり、其災はひ彼等が上にあり、否な其災はいは女性男性の上に合存して而して實に一國文明の上に大ひなる災はひとなる也」誰れか右の手に股を抓りて左の手に頭らを壓づるものを以て子を愛すると云ふ乎、誰れか一家族に不親切にして會堂に涙を垂るゝものを以て信抑あつしと云ふ乎、誰れか奴隷を虐使しつゝ民權を擴張するものを以て眞の自由家なりと云ふ乎、然りと雖も今の男子は其妻が屈服するを好むものなり而して世に向つて宣言すらく民に自治の精神なかる可らずと、又家に於ては專制擅治し族人に喙ばしを容れしめざる也而して世に向つては宣言すらく民に代議共和の權利あかる可らずと、何んぞ此の如き男子を呼んで眞成ある自由家となす。

儒教は封建時代に適するの女性を造るもの也。世人は實に封建政治を可ありとするか、徒らに溫しくてたゞ男子に屈服するの女性を可ありとするか、抑そも天眞爛々たる松柏を極めて小さき植木鉢に植え枝を切り幹を矯め之を机上に安置し朝あ夕あに弄そび愛するを以て快よしとする乎。蓋し或は然らし、然れども儒教が女性に於けるの効能は此にあり、女性が儒教に教へらるゝ所ろは此にあり、抑も亦た今後儒教の女學に利ある所以ん害ある所以んも亦た此にある也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

（結論）儒教を如何んせん

此に至りて吾人は自問するあり、然らば一の宗教として女性は今後此の儒教を信ずべき乎否やと。吾人は之に信ずべし若くは信ず可らずと確答するを須ひず、たゞ其の決して信用するヿを得ざる理由の存するを示めすべし。

第一、時勢は之を信用するヿを許さゞる也　吾人は子供の着物が着物の形ちを爲さずとは斷言せじ、左れど迚も成人には着られざるものとのみは斷言するヿを得る也、儒教亦た如此し」今や女學校は到る處ろにあり、多くの女學生は熱心に通學せり、即はち彼等は其家を出で多くの人に見られつゝ多くの人に混じつゝ修業する也、而して儒教は云く、

　婦人女子は外に出でずして内に於て學ぶべしと。

今や交際會は到る所ろにあり、假令ば舞踏會は余り宜しきものにあらずとするも、之ある時には亦禮式上出席せでは濟まぬヿもあり、然らざるも良人の屬する社會の夫々に於て、或は男女混合の宴會に於て、況んや之よりして日増に交際の盛んとなる世の中に於て、更らに況んや女性が社交上に於て大ある運動盡力を爲さねば成らぬ時勢に於ては、男女決して交はるヿなからんとするも得可らざる也、而して儒教は云く、

　男女七才にして席を同ふせず、夫婦にあらざれば相い交はる可からずと。

一夫一婦は道徳上の大法なり、之れなくんば純潔高尙の貞道は決して世に起るまじきものなり、今まや開化したる文明國に於ては皆な之を實行せり、文明國の法律に於ては皆な之を厳令せり、開化したる學者社會に於ては皆な之を主張せり、而して儒教は云く、

　一夫一婦は庶人の禮なり、士より以上數婦を置くを可とすと。

儒教が文明の大勢と相ひ背むくヿ大抵此の類なり、明治以後の女性にして若し熱心に儒教を信ぜんとせば、或る時は時勢は之をして儒教に反かしむべく、又或る時は儒教は之をして時勢に反かしむべし、嗚呼忠ならんか孝ならんか、寧しろ時勢に反むいて愚人とならんか、果た儒教に反いて禽獸とならんか、何れにしても實に難義なるヿ也。

第二、今后儒教には宗教たるの勢力なき也　道徳は云く斯くせよ斯く爲す可らずと。宗教は云く斯くせよと、而して之に爲すべきの他力を添ゆ、云く斯く爲べからずと、而して之に爲すまじきの恐懼を添ゆ。故に今の不完全なる時代不完全なる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人間に於ては、只だ道德論のみにては決して身を修めしむるの効を爲す能わず、必らずや其の論をして力あらしめ生ちあらしむるの後備大軍あるを要す。抑そも儒教は一種の道德論なり固より決して宗教にあらず、然れども其の今日に至る迄に殆んど是れ宗教に似たる程の運動を爲し來りたるものは、實に之に一種の力ら生ちのありつるが爲め也、何をか若か云ふ、即はち封建政治之れが生ち之が力らとはなりたる也。蓋し封建の政度は多く儒教に由て固められたり、而して儒教は亦た封建政度に由て強よめられたる也、儒教は只だ一篇の律論あり、然れども封建の天下、封建の君臣、封建の父子夫婦朋友は實に儒教の爲めの巡査兵隊と爲りたり、故に彼等が目附後詰によりて儒教は實に世の大勢力とは爲りたる也。而して今や封建政度は露の如くに解けたり、之よりして儒教は何に由つて生ちあるか、村夫子か、論語の講釋か、或は然らん、然れども若し如此き律法のみならば吾等は夙に胸中の良心に於て刻みつけられてある也、吾等は律法を知らざるにあらず（惡魔も神を知り、盜賊も仁義を承知せり）、只だ之を行なひがたきに困苦するのみ、吾等は智識を持てり、左れど力を持たぬなり、知れり但だ生ちなき也、嗚呼今后の儒教は果して此の生ち此の力を與ふることを得る乎。

思に決して與へざる也、而して更らに一個の不都合なるものは、儒教に女性の理想とすべき模範なきと是れ也。堯舜周公孔子は儒教の偶像ならん、更らに言を丁寧にすれば儒教社會の理想とする所ろの者ならん、然れども彼等は皆な男子なり、啻に男子なるのみならず皆な男子のみの爲すべき事を爲したり、儒教に於て女性が模範とすべきものは何處にありや、蓋し寥々寂々たる死したる言語はあるべし、然れども此の言語を人化したる實に生きたるの先生は何處にありや、男子に向つては儒教は之を供へたり、女性に向ては之を用意せざる也、嗚呼模範なきの宗教果して如何なる實力を有するぞ。

吾人は信ず儒教は實に世に効能を爲したり、左れど彼が役は最早終りたる也、古人云ふ功成り名遂ぐ則ち退くの時ありと儒教は今ま將に世を退かんとはする也、然るに今日に於て尚ほ之を引止めんとする者は、未だ眞に善く之を知れるものにあらず。

儒者にして大臣となりたるは本朝に只だ三人あり曰く吉備公聖武帝の時左大臣に任ぜらる曰く菅丞相醍醐帝の時右大臣に任ぜらる曰く藤原の在衡圓融院の時左大臣に任ぜらる。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

論説

○英米女子高等敎育大勢　け、う さ き

左に述べんとする英米女子高等敎育の大勢は、專ら米國博士某氏の蒐聚にかゝる事實に基づけるものなり。

女子敎育、特に女子高等敎育のなかるべからざる所以は、今更言ふまでもなく、夙に先輩の唱道したるとなるが、これにつゐては隨分やかましき議論のあること、しかしこの種の議論をなすは本篇の主意に非らざるが故に、こゝには只だ之れありと言ふに止どめ、直ちに進んで英米女子高等敎育の有りのまゝを陳述せん。

多年男子が橫領したる歐洲各國の大學も、社會機運の然らしむる所ろ時こゝに至り、千八百六十五年以降概ね女子の入學を允許したり、英米におゐて現にロンドン、オックスフォルド、ケンブリッヂ、ハーバード、ミチガン、コルチル、ボストン、パッサー、スミス、ウエルスレーの諸大學はいづれも女子のために門を開ゐて修學の便を與へたり、豈近代の一大盛事にあらずや。

第十八世紀の昔日を回顧すれば米國の女子敎育ハ甚だ卑近にてありし、當時の女子敎育を問へば僅かに裁縫、舞蹈、佛語、音樂、讀方、習字及び簡易の算術にすぎず、千八百十七年故米國大統領ジョン、アダム、氏の夫人が年倘ほ若かりし時代の女子敎育を記るして「當時良家に生まれたる女子の敎育と雖も僅かに習字算術を學ぶに過ぎず、稀れには音樂、舞踏を敎ふるもあり」と言はれたりとかや、良家の女子敎育已でにかくの如し其他推して知るべし、千八百廿六年始めてボストンにおゐて高等女學校あるものを設立するや、入學志願の女子無慮二百八十六名の多きに及び校運隆盛の徵候顯はれたりしも惜ひ哉千八百廿八年故ありて閉校せり、現今米國におゐて高等學校の課程を卒業する女子の數は殆んど男子に四倍すといへり、豈非常の變遷にあらずや、千八百八十六年の調査によれば米國におひて學校敎員廿二萬七千七百十八人のうち十五萬四千三百七十五人は女敎師なり、千八百八十六年にオバーリン、パッサー、ミチガン、コルチル、ボストン、ウエルスレー、スミス、ハーバードの諸大學女子卒業生は二百五十二人（いづれもバチエロル、オブ、アーツ若しくは之に比敵したる學力を有す）にして學校名簿に屬する女生徒の數は實に千九百六人ありしと。

千八百卅三年米國オハイオ州におひてオバーリン大學を設置

し創剏の當日より男子と同樣の學期を以て女子を教育せり、千八百五十三年仝州イエロースプリングにあるアンチオク大學も亦オバーリン大學に倣ひて女子を教育せり、千八百七十年ミチガン大學がこの教育法を採用するに及び米國西部の諸大學は靡然として到る處これに倣ふ、抑米國において女子教育に關し一般公衆の注目する所となり洽く歐洲各國の輿論を喚起したるは實に千八百六十五年ニューヨークのポーキプシーにあるバッサー大學開設のときにありとす、レデーアンバレー、博士ゼームス、ブライス氏ひと度この報を英國にもたらすや人々大に見る所ありて千八百六十九年ヒッチン大學(今のガートン大學)を設立せり、ニューイングランドの大學に女子の入學を許したるはまことにこの年を以て嚆矢とす、亞いで米國大學において男女の生徒を教育するもの、メインにコルビー大學あり、バーリングトンにバーモント大學あり、コンチクチカットにウエスレヤン大學あり、千八百七十三年にはボストン大學が女性の入學を許すあり、仝七十五年にはウエルスレー大學およびサンプトンにあるスミス大學も亦しかり、最後に於て、女子教育の最も昌盛を極めたるものをブラインマー大學と呼ぶ(ブラインマーはヒラデルヒアを距ること十英里の所にあり)、千八百七十二年コルチル大學は專らミチガン大學の制に摸倣し新たにセーヂ大學を建築し高等の課程を修學するの自由を女子にあたへり、ハーバード大學にても附屬學校を設けて女子の教育をなせるが其方法に至りてはウエルスレー大學及びブラインマー大學の如くならず、即はち千八百八十七年の該校報告によれば「當附屬學校を創立シタル主意ハ女子ノ大學トスルニアラズ………單ニハーバード大學ニテ男子ニ教授シタル學科ヲ女子ノタメニ反復スルニ外ナラズ、教授ハ一切ハーバード大學ノ博士、教官コレヲ掌ドレリ」とあり、その異なる所あるや明らか也、千八百八十八年の生徒員數は九十名あり、なほ一層教育の標準を高尙にせんとするの計畫ありといふ、其外エベリン大學の如き、プリンストン大學附屬校の如きもみな女子のために教育の道を備へたり、千八百八十五年ニューヨークのコロンビア大學は始めて女子の入學を許し該校の大學科程を履修したる女子には男子と等しく學位を授與するよしを公にせり、然れども男子とは異にして大學の特權を悉く女子に與へざる場合なきにあらず、女生の員數は最初卅八名ありしと、合衆國南部においては千八百卅七年メーインに設立したるウエスレヤン女

子大學ありて其名嘖々、成蹟夙に良し、テキサス大學も女子の教育を始めたり、ミスシッピーに設立したる女子職業學校は多年女子實業と智力發達とを促さんと俟ち設けたる人々の望みを滿足せしめたり、以上の學校を除ゐてハ女學校中別に見るべきものなし、今にしてワンダービルド大學其他南部の諸大學が女子の入學を許るすの時至れば廿年の星霜を經ざるうちに南部諸州は女子高等教育の文明園となるべしと或る人はいへり。(未完)

○飲食物の說附酒と煙草の害(其五)　津田仙述

煙草の好きな人が俄かに之を止めると云ふとは、中々困難でありまして實に憐む可き者であります、私の懇意な桂某と云ふ人は非常に烟草好きでありましたが、其害のあるとを悟つて一切之れを止めると云ふ事に、決心しても何分思ひ切ませんで仕方がないから、モー一錢限り買つて喫ふと思つて又吸始めますと止めるとが出來ませんでしたが、一旦止め樣と決心して止めるとの出來ないのは不宜ない、モー是限り止め樣と決心した所が夜る寢に就きますと之を鬱悒に迄見て實に堪へられませんで苦しんだ、曉に夢中で脫帶裸躰で飛び出して築地の小田原町の煙草屋の前へ行つて立つて居りましたが、フト氣が付きて何しに來たかと見れば手に天保錢を持つて立つて居ましたとのとであります、ドーも止めやうとすると煙草が戀しくなつて其位夢中になつて仕舞ます。酒も其通りで亞米利加の禁酒會で最も勢力のあるジョンコーフと云ふ人が演說すると人が黒山の如く集つて聽きましたが此人は元と最も大酒家で帽子を造るとを職業に致して居りました、此人ハ始終酒を飮んで酒の氣がなくなると帽子を造る仕事が出來ません程でありましたが、或時禁酒會の演說を聞いて大ひに悟りまして禁酒會に加はりて、最早一切酒を禁じて手を附けぬとを誓ひ家に歸つて參りまして、翌日帽子を造り始めました所が何分帽子を造る仕事が手に附きません、手に附かぬも道理酒を飮まぬからであります、夫から酒が飮みたい〱と思ひつゞけて實に晝間でも惚に見て何か眼の前に惡魔の樣な者が襲つて來たる故居ても立つても居られませんで是れではドーしても禁酒會の誓約を破らなければならんと思ひまして何にしろ先づ是れから酒店に行かふとして居る處へ禁酒會の人が一人參りましたゆゑマア此方へ御通りなさいと申しますと其人の云ふには貴所は禁酒會へ這入られしよし誠に御目出度う御座いますイヤ只今何分堪へ切れず酒を飮みに行かうと

思つて居ります所へ貴所の御出でありましたと申しますと其人が色々説諭を加へ且上帝に祈禱を爲したるに、夫れが爲めに又覺つて、愈よ禁酒を致しました、所が此人は天然の雄辨家でありまして、夫から學術を研究して立派な演説家となつて亞米利加のみならず、歐羅巴にまで有名の人となつて其演説が廣く出版せらるゝ事になりて、之が爲に最も有益ある人とありました。

餘り御話が長くなりますが、上州に於て近頃一人の酒を止めた事に就て面白い話が御座いますから序に一寸御話致ます、上州藤岡在の中山重兵衞と云ふ人で御座いますが、其土地で此の人の右に出づる人がありません、此人は學問もあり才智もある人で恰度只今申しましたジヨンコーフと云ふ樣な人で其人が昨年酒の害と云ふ本が手に這入りまして、夫れを讀んで大いに悟られまして直に親類の者を招いて之を讀んで聞かせ、斯う云ふ譯だから酒を止めると云つて其一座の者に語つたと云ふことであります、扨て私が先頃同地へ參りますと或人が右の話を私に致されまして、同人の母が毎日〳〵喜んで居るから一度行つて話して呉れと云ひますから、其宅を尋ねますと其母も本人も大いに喜びました、其時私が其人に話しますに、只だ酒に害があるから止たと云ふ計りでは未だ安心が出來ない、何故と云ふに其れは僅の間止るので長くは守り難からん、人の噂も七十五日とやらで、少し年月を經れば貴君は大酒ありしことを知る人もなくありし頃、貴所が若し旅を爲されたならば、先づ旅店に着くと下女が御銚子を一つ付けましようかと尋る時は、今晩丈はと許し、又翌晩には旅の間丈けは宜からうと云つて飲む、家へ歸つては寢酒丈はよからうと云ふ事になると、何んだ彼人は酒を止たと云ふ話であつたが、又飲み始たかと云つて人に背指を指れる事がありませう、然るに基督教徒は斷然止る事が出來るから、お前も此教會に這入つたら宜からうと勸めました。(未完)

批評

○美妙齋主人の「蝴蝶」

あだー野の友

失禮も省りみず、既に春の舍主人の「細君」を評しましたからは、續きて美妙齋主人の「蝴蝶」に付て亦た一言いたしましやう。

概して申せば余程の出來です。特に其の想像に豐かなることと、風流ある情の靈玄なることと、並に文章の温厚にして或時には

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

春の朝たに薄霞を引きたる如く又或る時には秋のさびしき夕べ狼が血を舐ぶる如き所ろのあるは、實に敬服の至りです。先づ大躰の上より毎回の善惡を略評いたして、扨て後ちに各段の優ある所ろ劣れる所ろを申しましやう。

第一回　檀浦の戰かひ悲しくも早や終らんとする所ろにて筆を起す、修羅の巷た殘酷の死骸を遺こして早や段々に響きを減ずるの趣きいみじくも寫し出されたり。能登守と新中納言とを出し、平家末期の大立物を現はす用意老手の筆なり。此の時、敦經が鎧の袖の切れ目を寫すは、餘り細か過ぎて反て拙です。御座船の奥へ八人（九人にはあらぬ歟）を呼びて秘密に物語る、蝴蝶切々に立ち聽くの趣向極めて面白し。二位の尼假の主上を船端に導き申す時、蝴蝶に出で合ひて實を告ぐるは未だしも善し、左もありつらんと想像せらる、但だ「主上の被衣を取退ければ」の一句、實に兒供の言ふとです、否な愚婦の爲るとでしやう。

第二回　浦つゞきの春景色眞とに善く畫かれてあります。蝴蝶が裸躰を愧ぢ、人も居ぬ乍ら猶ほ吾と吾身へ對するとても言ふべき羞を帶ぶるの趣き、尤に聞ゆ、若し此の文字の通りが畫に寫されたらんには、兎角彼此の評はあらざりしものを、ハツシ無殘、「思はず出した二郎の聲、さて其聲を見送るのみか、怨めし氣に光りを凝らす蝴蝶の眼、手弱くも横へ向く二郎の眼」此の末聯は實に巧みです。

第三回　此一回全篇中の筆尤も重き處尤も高き所ろで、意想の經營に辛苦されたる跡歴々として現はれたり。特に後段寧しろ主段とも云ふべき、彼の蝴蝶が殘酷にもいよ〳〵決心して二郎が寢息を窺がふの所ろ、闇は昏く、梟は鳴き、山風は冷淡に戸の隙間より入るとを序して、「美人の蝴蝶は……闇にも晃めく短刀を拔離してじつと眤めて息を一吹。寐入つて居る良人二郎の顏をのぞき込みました、極めて冷かに」此の兩句双方の結びに千万斤の重みがあります。煩惱は哮る、余は可と思ふ。「酌知らせて……喃…二郎ぬしイ」のぬしイ實に妙。忠義、愛情、源平の戰かひよりも激烈にて、美人が心胸は煩悶痛悶、時としては優しき妹脊に思ひ切まり時としては寄せ來る高義の念に責めらるゝ躰、よくも寫されたり、然し其の末に於て、將に刀を下さんとする、即はち煩悶痛悶の尤も激、尤も痛ましき處ろに至りて、俄然筆力の落ちたるは何事ぞや、起承の兩句極めて美なり、一轉勢ひを露の如くに散じて、結句の花正に枯れてあるの感を覺るは極めて遺憾なり、思ふに末に

至りて最早力の拔けたるか、左りとて亦た「今にその首から血が出ましやうか」の一段實に甚はだしき蛇足なり、若しも此の一段なくて直ちに「その内に、無殘、」の所ろへ續かば未しもなりしあらんに、況んや「その首から血も出ましやうか」「あゝ斯う活きて居るものを」の如き愚らしき二句を混じたるをや、かさねゞの失策、かさねゞの遺憾である。

第四回　モ少し言ひたい樣、然し「掻曇る雪氣の空を吹變へて月よなり行く須磨の浦風」の結び、之にて全篇が生きて來ます。」

文章の上にて宜しき所ろは、繰反して申す如く想像に富んだので、而して常も生温るい詩人の樣な言ひまわしが反つて妙を凝らして居るです。特に冗漫に流れ易く、力弱きに陷いり易き言文一致躰を、左はさせで力を文字の滿腹に含ませ、折々に極めて慘ましき文字を用ひたる所ろが主人獨得の筆法です。即はち、錯の袖の嚙合ふ聲、血に乾いた咽喉を鳴す梟、湖淋しく營める山風、煩惱は哮る、忍寄る曉の青い朦朧に映つて、嚙まれて居る亂髮、の如し」。主人の筆に在るいつもの過ち、否な言文一致躰の短所とか申したきは、御當人が毎度文章の中に現はれるとです、之は既に言文一致と云ふ言わば談し家が口で文章を述ぶると申す趣向の上にて止みがたきとかは知らず、左りとて讀者に成るべく少なく左樣の感じを與ふるが修辭論の法でありましやう、例へば小説をお書なさるにしても其中に作者が現はれて來る程の禁物はありません、劇場道に喩へれば万日涙に浮む歌舞妓座の正舞台に櫻痴先生がちよいゝと顏を出さるゝ如きで、いくら愛嬌のあるお顏でも余り有がたくは無いです。故に此篇に付て云はゞ、「今すこし前でした」、「弱りました」、「それで、妙です」の如き御講釋は以后何か外の語法にて寫されたし。更に一つ、「その笑顏は冬野の寒菊、無情の風を待つのみです」と云ふやうな、殆んどナドめいた文章は主人が特につゝしまれたい所ろです。

扨て殘念乍ら申さで濟まぬは、もしも精一杯にお作りありしと言はゞ更らに多くの御注意を願ひたくありしと思ふとにて候。先づ文章の上に付て申せば、如何に壇浦の戰かひにて海に緣あればとて、既に「遠見の果てが涙に搖られて」、「士卒の船が涙に弄ばれて」、「波にもてあそばれて居る鷗」、「五尺の黒髮は舐め亂した涙の手柄を見せ」、なぞとありて止を得ず用ちひられた涙の文字の既に多い上に、更に、能登守の錯の袖を叙するとき「袖の切れ目の糸は微かな波を空中に打つ

て」、蝴蝶の顔ばせを叙する時、「顔に同じく涙打つて」、丸木屋のさみしき夜を叙する時、「殘燈が哀れな涙を打つて」、托鉢する山の邊りの紅葉を叙する時、「山の陸に錦繡の波を打たせ」、の如き斯く迄に波の多きは如何でしやう、其外に涙と云ふこと、及び涙を露に形容せしとが甚はだ少なからぬ樣に思はれました。

春の舍主人と云ひ美妙齋主人と云ひ、共に是れ名だゝるお方なるに、わだし野に隱れたる時世後れの老人が、斯く無遠慮に批評がましきとを申して、さぞかし心中窃かに御立腹もあらうやに推察は仕まつたが、然し如何にもお骨を折られたるお作と見たる以上は、文學の爲に一言をせでは相濟まぬやうに感じつゝ、扨ては反り花咲かせて年に似合はぬ繰言を申し候、くれ〴〵も容赦あれ。

一言するに、美妙齋の筆は初春の樣です可成り温たかであるが亦た甚はだ冷たい所ろがある、但だ梅花一枝先づ馥郁として香はふ樣姿が如何にも綺麗で如何にも可愛らしくある、春の舍の筆は初夏の樣です、花はどちらかと云へば先づ盛り過たので、間ま葉を混ぜて居つて、而して實を結びかゝつて未だシッカリとは結びません。夫故へ、前なるは暗香の浮動する梅月で、後なるは芋や豆を供へられた盆の大ひなる月です。一つが雨後の耶馬溪であれば、他の一つは氣麗らかなる嵐山の櫻の盛りです。若しも一方を潺湲たる谷川の流れに見立れば、無論他の一方は濁流をも流しつる大河の水と見られましやう。左れば一つは美くしくて、他は派手やかなので。一つは香ひがあつて、他は實があるので。一つは忍ばせる思ひ入れて、他は嘲けらする樣な趣きで。彼には靈を動かされ、此には胸を騒がされ。彼にはズットすまし込だる生白ろい情詩人が思ひ出され、此には如才ない反らさない滑稽の上手な今作者が思ひ出されるであります。

智慧外に呼はり衢に其聲をあげ、熱閙しき所にさけび城市の門の口邑の中にその言をのべていふ、なんぢら拙者のつたなきを愛し、嘲笑者のあざけりを樂み、愚なる者の智識を惡むは幾時までぞや、わが督斥にしたがひて心を改めよ視よわれ我が靈を汝らにそゝぎ我が言をなんぢらに示さん。

叢話

○憲法發布を祝したる歌　しのぶ作

之は當日女學生等に歌はせたる新作にて、譜は"Coronation"を用ゆるもの也。

王兵御旗をあげ。海陸軍百一砲。三千余万歡呼して。
祝へ日本人。

"Niphonjin"—Coronation.

王室のいしづえ。國の憲法。けふ置れたり、いざ
祝へ日本人。
皇統は連綿千万年。聖壽は万々歳。限りなき幸ぞ。
祝へ日本人。
君は德を垂れ。民は慕ふ。とつくににほこり。
祝へ日本人。
ひがしに出たる。日のひかりは。みはたをかざせり。
祝へ日本人。
朝日はのぼりて。御旗たかし。万こくはほめうたう。
祝へ日本人。

○女子亦た公事に注意すべし

みどり

必ずしも自から公事に關係せぬとも、女子は之よりして餘程公けの事に注意せねば成りませぬ。先づ夫を持てる妻、子を持てる母、兄弟を持る姉妹ありとすれば、其の夫、子、兄弟は必らず何か社會の事に關係して御座るでありましやう、既に社會の事に關係して御座るとすれば、固より喜ばしひ事も起れば、亦悲しひ出來事も起りましやう、其時々に或は之と喜びを分ちていよ〱之に喜ばせ、或は之と悲しみを分ちて彼が悲歎を慰さむるものは、即はち家に在る所ろの優しき女性で、彼が妻、彼が母、彼が姉妹ではありませぬか。女性は實に男子を助けるものでありましやう、若し助けるものでありますれば、男子が尤も助けを要する處に於て助けねば成りますまい、然らば何事が尤も多く男子が助けを要する所ろでありましやう、寢起の世話ですか、之もありましやう然し之は下婢でも致します、風呂行水の世話ですか、之もありましやう然し之は三助でも致します、實に其の妻でなくては實に其の母で實に其姉妹でなくては出來ぬと云ふ所ろが、是れ即はち妻や母や姉妹が各々の男子を尤も多く助ける所ろでしやう。然らば其の樣な所ろとは何か、即はち男子が尤も喜びとする所ろを共に喜んでいよ〱之を勵まし、男子が甚はだ悲しんで居る所ろを慰さめて盛んに之を鼓舞するとであらう、夫には女子が社會の事を全く知らなくては出來ません。先づ男子が商法に從事するとして、株劵の失敗で怏々として家に歸つても、妻は株劵とは如何なるものか、株劵の下落とは何如なる所以で起るかをも知らない時は、如何して其夫を慰さめられましやう、只だベソ〱と共に泣くのみです。若し男子が政治社會に奔走するとして、何か國事の爲に身を犧牲にして死を決せんとする時に當り、時の政治は何故に左

樣に惡るいかと云ふとも知らず、民權は何故さやうに遁いものかと云とも分らず、矢張り安樂に官員になつて居らるゝ方が善かり相なものだと云ふ所ろの婦人があらば、其夫や子が牢屋にでも囚はれると乍ちビックリするでせう、何か泥棒でもしたのかと思ひましやう、此時に當つては只だウロ〳〵とウロタヘル計りです。之では成りません。

故に女性にして獨立獨行し獨り世の中に働らくと云ふお方は固よりの事であるが、左なくとも、凡そ人の妻となり母となる所ろのお方であつても、苟くも賢妻良母たり、苟くも愚らしくない當世の女流たらんとを欲せば、少しは世事に注意して、少しは新聞でも讀み、少しは公けの事が話せるやうにならなくては成りません、之からの女子、憲法發布後の女子は、特に左樣であります。

女學校の生徒なども此の心掛がありたい、女學校の教頭幹事は特に此の注意が欲しひ。凡そ男子の學校では餘り世間の事に注意させぬ位ひにすると丁度好いです、何故なれば左樣にしても男の生徒は兎角時勢論を仕たがるので、其上に又學校を出れば皆悉く社會に出るのですから、此事に付ては男生徒は放て置ても善です。然し女生徒は元來公けの事に注意せぬ僻がある、其上後ちには大抵一家內に這入て仕舞うものである、男生徒の多くが明るみへ進みつゝあると云へば、女生徒の多くは部屋の內へ這入つゝあるのです、故に女生徒は學校に居る中に公事に注意する習慣をつけねば、後には全く公事に注意せぬやうに成ます。故に女學生にして賢妻良母たらんと欲し、教頭幹事にして賢妻良母を造らんと欲せば、女學校中に、、、、、適宜の限り迄で公事に注意する眼こを開かせねば成りませぬ、之れ女子教育上の一つの特別なる用意であります。

○貧にして且つ尊とし　　もみぢ

四面は海、島內は山、尾頭殆んど相接する此の小さなる日本國に於て、苟くも國の爲に事を爲さんと欲するものは先づ其生涯の貧なるとを覺悟せよ、苟くも惡衣惡食を愧ち、但だ彼の玉樓に居して驕然安臥する貴公子を羨れありとせば、國の前途實に憂ふべき也。孔子云く富且つ貴とし、と、即はち貴ときは富の外にある也、むかしリビンストン双親の爲に碑を作り、銘を記して語あり、云く「彼等が一生は貧にして且つ尊うとかりし」と、友人諫めて曰く之れ可ならず、須らく「彼等が一生は貧なりき然れども尊うとかりし」と改むべしと、リビンストン曰く否な、彼等貧にして能く尊とむべきの生涯を

我に敎へたればこそ、即はち我は今ま困厄貧窮の間に人類の類の爲に盡すことを得るなれ、貧且つ尊(Poor and Noble)の三字尤も重き所ろありと。あゝ今の士人女子にして若し貧賤を嫌はゞ、之れ吾黨の同胞にあらず。

然りと雖ども余は富を惡むものにあらず、徒らに富を惡むものは殆んど愚なり、大事業を爲す固より黄金なかる可らず、但だ斷じて確言する所ろのものは、其生計を貧しくせよ、貧に安居せよと云ふのみ、別言するに其の富は之を自用に用ゆ可らず、悉く之を擧て公共の事に用ひよと云ふのみ。

〇女子が公事に關係する第一着手　かすみ記

二月十一日、明治女學校の憲法發布祝日に於て植村正久ぬしが感話は太たく妾らが心を破ちぬ、依て其大意を記るし同志の人々に示すものなり。

若し女子が之より公けの事に關係なされようとならば、其の第一着手として極めて行なひ易き一つの方法があります。一躰女子は批評が上手で、乍まち男子に見えぬ所ろをも看破して、彼此と風評せらるゝが長所である。故に此迄て女子の批評の勢力は既に力強よく行われて居たので、例へば茶家のカミサン、演劇の得意の婦人などが、其一言一評によつて役者の名聲を左右したことは實に驚ろくべき程であつた、即はち女子はシバイの舞台に於て藝を仕たるものを見て、極めて巧みに批評したのであります。如此き批評に於て勢力ありしとは、固より余まり喜こぶべきでない、實は女子の爲に祝されないことであります。が然し若し此の一長所を少しく他に轉用して、之によつて、向來政事上の舞台に出るものを批評せられたらんには、大ひに善らうと信じます。先づ今年七月に國會議員が撰擧せらるゝと假定して、扨て如何なる議員を撰擧せんと、父や兄が考案する時に當つて、父や兄は或は斯う考がへませう、何某は利口で辨才があつて且つ法律經濟の學に長じて居る、あの何某こそ宜しからんと申して之を撰擧しやうと相談せらるゝときに、若しアナタ方の一人が其處に御座らば、先づ深く考へて戴きたいことがある、即はち其の何某なるものゝ學問辨口は左樣であるとして、扨て其人は正直であるか何如か、若し正直であるならば宜しひ、然し若し正直でない、善でない、惡るい、根性が惡るい、道義の事に頓着しない人であると分つたならば、即はちアナタ方が靜かに父兄に向つて、之を諌められたいのである。之は實に行なひ易いことて、之が即はち女子が公事に關係する第一着手でありましやう。夫には即はち平生より少しづゝ議員にでもなろうと云ふ人の評判を初じめ、其人物を批評し、其心術を批評し、イザ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

撰擧と云ふ時に之れ丈けの喙ばしは入れられるやうに爲されませ。斯すれば必らず二つの利益があります、先づアナタ方が眞ぞに小さい事にのみ頓着しないで、公けの事をも考へるとが出來るやうになる、次には斯くして國會議場に正直なる義人が多く出られるやうに爲るでせう、先刻より諸君の演説や文章を承はるに、何れも正義を慕ひ、惡を惡む所ろの方々と見受られる故に、若しアナタ方にして今申す批評に着手せられゝば、必らず此の二つの利益があらうと信じます。昔し希臘のアリストートルは有名なる修身論を書きまして、其書の最後に次の如き一言を申して終りました。其言に、凡そ惡人は賢明の事を爲す能はずと。實に千古の名言である、既に良心が腐れ、心術が正しからずば、何如に才智はあり、何如に學問には長じても、何處かに拔目がある、決して眞に賢明なるとを得ないものであります。此の一事は我國人が多く注意しない所ろである、然しアナタ方は深く之を心に留めて、先づ公事に關係するとき、此の正義の批評を擔つて世に出られたいとであります。

○世界の三友

石橋忍月

此短篇は原題ドライ、フロインデと稱して獨乙國瑞脇ヘルデル氏の作ですが之を反譯すれば何となく味ひが消えてさツぱり面白くなくなりました。」

宴會の席上にハ朋友最も得易し獄屋の門前にハ朋友最も得難し汝等未だ試みざる朋友を輕々しく信ずる勿れ。

曾て一人の男あり三人の朋友を有せり彼ハ甲乙の二者を信愛する最も深く丙者を信愛する最も淺く丙者の有無ハ彼に取ツてハ毫も喜憂を感ぜざるなり彼ハ或る日寃罪の告訴を受け裁判官の譴問嚴密證跡確固殆んど之を言ひ開くの道なし即ち彼ハ三友に向ツて曰く諸君の中誰か亦我が爲めに證人となツて我を裁判官の面前に辨護し我を寃罪の中より救ふ者ぞ我ハ將に大罪人の汚名を受けんとすと其言最も悲しく其心最も憐む可し甲者ハ他用の爲めに裁判所に出頭する能はずとて斷り乙者ハ彼を裁判所の門前に導き判官の震怒を恐れて中途にして遁げ去れり然れども丙者即ち彼が今日迄擯斥したる所の丙者ハ彼と共に判官の前に到り滿腔の誠實滿胸の愛情を以ツて其寃罪たるを辨じ遂に再び彼を靑天白日の身となせり。

嗚呼吾人の全生活全生涯ハ實に之に類する三友を有するなり此世界の三友ハ吾人の死後裁判所なる神の面前に於て如何なる行爲をなすや。生前最も良友と信じたる金錢ハ先づ第一に吾人を見捨つべし金錢ハ決して吾人に追隨せざるなり吾人の親族知己ハ吾人を墓畔に導くあり然れども再び家に歸るなり

親族知己も亦た吾人に追隨せざるあり吾人が生前に於て殆んど忘れたる殆んど熟知せざる者一人あり此者は永く吾人に追隨同伴して神の前に行き吾人の爲めに辨護し吾人の爲めに信情を現はす是れ何者ぞ。是れ即ち慈善の所業と稱する良友なり。

○ブルータス演說の辭

松井まん子譯述
かすみ校正

ブルータスは羅馬の義士なり、シーザーは平生其の尤も信愛したる友人なりしが、一朝非望を懐きて羅馬の民權を抑壓せんとするの前兆ありしかば、ブルータス毅然として義の爲に憤うり、同志者と起り立て遂に之を刺殺したり、彼が友愛、彼が道念、而して道念終に友愛を刺して國の爲に此忍びがたきを決行したる、志想凛潔萬古に徹すと云べし。憲法發布祝賀の日、明治女學校の祝會に於て、松井生がブルータス當日の演說を譯述したるを聽き、妾は坐ろに感じて新らしく思たる節あり、因て之を校正し女學雜誌に投ずと云ふ。

羅馬人よ、國人よ、我愛する所の諸君よ、願くは終に至る迄忍んで我が辨ずる所を聞かれよ。而して諸君は之を聞得る爲に靜かにあれ、我名譽の爲に我を信ぜよ、我を信ずる爲に我名譽を重んぜよ、而して諸君の智力に依て我を判斷せよ、善く判斷する爲に諸君が感覺を醒せよ。若し諸君の中にシーザーが親友あらば、我は其人に向つて言はんブルータスがシーザーに於けるの愛は決して君に讓らずと言はん、然らばブルータスは何故にシーザーに反らつて起り立ちしやと問はれんには我が答は次の一言である、我はシーザーを愛せし事の少かりしに非ず、ローマを愛したる事の多かりしが故なり。彼は我を愛せし故に我は彼が爲に泣きたり、彼は多福なりしが故に我は之が爲めに喜こびたり、彼は勇猛なりしが故に我は彼を名譽としたり、然れども彼れ非望を懐きたるが故に我は彼を殺したり、彼が愛の爲には淚あり、彼が多福の爲には喜こびあり、彼が勇猛の爲には名譽あり、然れども彼が非望の爲には死ありたるなり。諸君の中奴隷たる事を甘んずる卑しき人ある乎若しあらば告げよ我は其人に向つては害を加へたり、諸君の中羅馬人たらざる事を甘んずる野蠻ある人ある乎若しあらば告げよ我は其人に向つては害を加へたり、諸君の中國を愛せざる如き醜惡なる人ある乎、若しあらば告げよ我は其人に向つては害を加へたり。我は暫らく止めて諸君の答を待ん。

斯て暫らく中止す、聽衆狂呼す、誰もなし〳〵一人もなし。
然らば我は何人に向つても害を加へたる事なし、諸君がブルータスに對して當に爲さるゝ如くに我はシーザーに向つて爲したり、シーザーが罪狀は殿堂に記錄し置たり、固より彼が榮譽は徒に之を減ぜず、又彼が罰は徒に加たる事なし。
見よ茲に彼が死躰は來れり、マークアントニーに吊らはれつゝ來れり、彼のアントニーはシーザーの死に片手をも加へざりしが亦同じく彼が死より來る利益を得たり、其如く諸君も何人か均しく之が爲めに利益を得ざる乎皆共に共和政の一民となられたるに非ずや。故に我は一言を述べてこゝを去る可し、即ち我は最愛の友をローマの善福の爲めに殺したれば、若し此ローマ國が我の死を要する時よは我は又我自身に此の同一の劔を用ゆ可し。

佳傳

○破鏈談　みどり

第三回　一男を失なひて一女を得たり。

ジーンは之を見るや否や狂氣したる如くに走せ寄り、父よ父〳〵よと大聲にて叫び乍ら抱き着かんとせり。父は、彼方へ〳〵と退けて近づけざらんとするに係らず、ジーンは眞直に兵卒の前に出で、願はくは吾父を免し代はりとして吾を捕へ玉へ、と云ふ。兵卒は極めて驚きたる容色にて無言のまゝヂット眺めたるが、ナニ代りたいとナ君は自から言ふ所ろの意味を御承知なる乎、此の老人は頑固なる異教者として審按せられ多分船押の刑に處せらるべきものに候ぞ。然り〳〵夫は好く承知仕つれり、然し父が老躰は迚も其刑に堪へ申さじ、吾は年若く躰だも丈夫なるに、而も異教を信ずるとは決して彼に劣らぬものに候、是非に吾をこそ捕へ玉へ。父は制しつゝ言ふやう、イヤ〳〵吾子よ、汝ぢは彼方に行け、吾が僅かなる余命は如何なるとも憾みなし、汝ぢは尚ほ年若くて前途の望み多きものを。左れどジーンは之を聞かずいよ〳〵兵卒に向つて叫びたり、あゝ君等も亦た父を持てる、人の子にはあらざるか、吾情を察して父を免し代りに吾を捕へ玉へ。
兵卒は心を打れて遂に其の如くに爲しつるが、ジーンが健氣なる行ひにほと〳〵感涙を催うし、父がウロ〳〵として勞苦するを慰さめながら、君よ安んじ玉へ此場の立派なる處行は成るべく公けに言上して必らず早く許さるゝやう計らひ申さん、恐らくはたゞ數週間數ケ月の刑にて許さるべければ必ら

ず失望せず、待ち玉へよ。此時傍はらに來りたる彼のラモントに此の老父を托し、早やジーンを引いて行かんとは爲す、父は憂痛かぎりなく思はず又も走せ寄らんとす。ラモントは之を制して慰さめける、僅かに數週間數ヶ月にて発され申さん安心して待ち玉へと、而して此の數週間數ヶ月はラモントがたゞ望む所の日月なり、もし此の暇まわらばジーンよ先だち器械を成就すべしと喜こびけるぞ、空恐ろしき知れもの也」。

扨てもモレルは家に歸りて有りし事柄を具さに語り、先づ其身の恙がなかりしとを祝すると共に、チーンが吾をかばひて絶壁を連れて退きたる眞心を謝し、妻と娘と三人打寄りて喜こび又は誇りける。然るに此時人の來りて語るやうは、ジーンは捕らへられて其父は逃れたりと申す、何迚さやうの事のあるべきや、現に吾を連れて逃れたるものを、大方ジーンが逃れて父が捕へられしとの誤まりぞと云ふとき、又もや人の來りて同じき事を語り、或は現にチーンが引れ行くを見たりと云ふものわり。

モレルは立つて思はず室を出でたり。マリーも亦た思はず立つて之に續けり、父よ／＼何卒妾わをチーン許連れ行き玉へ。

ヨシ／＼行かうとも、一處にサヽ早く行かう、汝ち自から之を聞くこそ善けれとて、一言をも遺さず父と娘は家を出でたり、最早途中にて人の風評を聞く迄もなし、眞一文字に走せりて、チーンが家に到りぬ。

到ると同時に老婢パペッテ内より出で來りたるが、出でがしらにマリーを見てアット號泣して倒れたり、マリーは一瞬間思はずに、身を震はせたるが、此の痛愁せる一瞬間は乍まちに彼を變へて乙女より一婦人に化せしめたる樣ありき、彼は最早一滴の涙をそゝがず、一聲の叫びを發せず、たゞ天にある尤も強きものを直感して、其強よきを祈禱しつゝ、靜かに言へり、發矢パペッテ、何事ぞ、妾わ等は其事柄を聞には來りしものを。

斯て其事柄を精はしく聞き、ジーンが此の尤も尊とき處行を爲したりと知りては、マリーが青白くなれる唇は微しく開らきて、莞爾として笑めり、ヲヽ我が愛する所ろの人は何如に大胆なる勇士にてわりつるよ。

ジーンが父はマリーに謝して之を慰さむるごとくなり、然るにマリーは反つて之を慰さめ、父よ之よりは一人の娘を持てりと覺し召せジーンが居まさぬうちは何如にとも御かしづき

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

申さん、是は定めしジーンが望む所ろとこそ思ひ侍る。老父が手を固く握りて之を安んじたり。此時近邊の人々多く來りて彼等を慰さめ、且つ如何にしてジーンを救はん、願書を出さんか又は自から訴へ出んかなど、さまざまに打語らうときジーンが父とマリーとマリーが父とは三人たゞ默して打聽き居たりける。

小説

○理想紳士

月の舍しのぶ

第三回　今日余れダビデを獲たり。

吾等二人は斯て既に親密となりぬ、襄は丁寧に余が車を押して靜かに街道を通り、道端れの樹林に到りぬ、木は梢に於て相抱き僅かに日光を洩らして路の上に光りを紋するなり。襄は偶と立留りて大きやかなる椽の葉の落たるを拾ひ、

美しひジャ御座いませんか、モウ秋が來ました。

ア、而して冬が來て、外で仕事が無ときはお前どうするノ。

何如しませう乎、まだ知りません。

彼が顏色突然に變れり、彼の餓へたる疲れたる容色は今ま吾々が談しする間だは暫時消へ失せたるやうなりしに、此時復も前に倍するの苦痛を持て歸り來れり。余は思はずに樂しき話しを中止したるを悔ひたるが、斯て無言のまゝ更に數間の道を進めば、則はち余が家の門前に着しぬ。余は此處なりと云へり。

襄は此に到着し暫らく邸宅を眺め居たるが、乍ち、

さやうならば、

と云つて行き去らんとするにぞ、余は驚ろきたり、此の時初めて氣が附て驚ろきたり、此の告別の一語は余が心を刺したり、余が悲しき淋しき多病ある生涯は過る十六年を二倍にし三倍にして余を苦み多き老人と爲したり、然るに今ま此襄に會ひて樂しき年少の時代が頓かに思ひ出され、嘗ても余の一身には存せざりし彼の少きと強きと云へるが初めて輝ぎ得たり、左れば今ま此の襄をして行かしむるは恰かも再たび暗黑の中に入るやうにて、悲しさ限りなし。

イヱ未ださやうならではありません。

云ひつゝ車より出でんとするにぞ、彼は直ちに余を助けて介抱したり、

アナタを抱きませうか、

女にだも聞かざりし親切の聲音にて斯く言ひつゝ、余を抱き

たり、余は兩腕を彼が首に纏ひたり、彼は注意して安全に余を揚げ入口の戸の前に置きぬ、而して再たび告別して行かんとしたり。

余は思はず聲を發して叫んだり、何を叫びたるにや記憶せざりしが、兎も角其聲を聞てなり彼は再び止まりて歸り來り、

何か外に御用がありますか、アナタ。

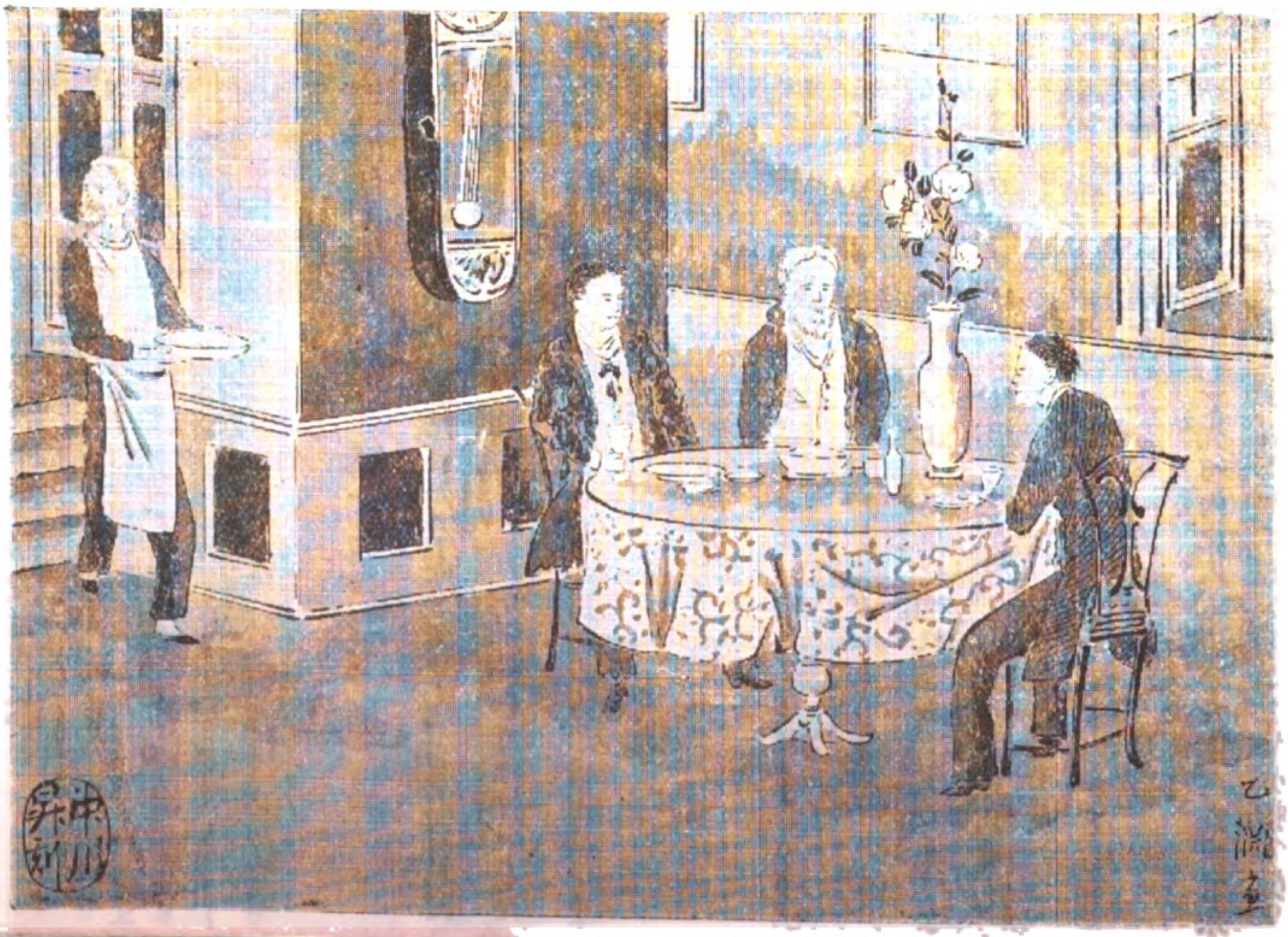
アナタなどと言ひなさるな、私しも矢張同じ少年だのに、私しはお前を要します、行きなさるな…ア丶父さまがモウお歸んなすつた。

襄は傍はらに除け、帽に少しく手を觸れたり、極めて成人らしく、

ヲ、未だ此に居るのか、息子を連れて來て呉れたか、お前はモウ金を貰つたか、エ、少年。

吾等は全く金の事を忘れて居たり、其由を父に語りたるに父は大ひに笑ひ、襄を正直なるものと賞めて別に隱しより金を取出さんとし玉へり。余は父の耳に口寄せて少しく耳語たるとありしが、未だ父の答へを得ざるとき、襄は三度び告別して去らんとせり。

待て、少年、お前の名は忘れて仕舞たが、此にお前に遺る



六錢がある、外に二十五錢、之は息子を親切にして呉れた褒美だよ。

有がたう御座います、然し私しは仕事の賃錢だけを戴きます。

彼は六錢を取り、二十五錢の銀貨を父の手に返したり、

エーッ

父は驚ろきたる聲を發し、

お前は面白い少年ぢや、然し長く話しゝて居ることが出來ん、文太、内に這入つて御膳をお上り。

云ひつゝ急に思ひ出して裏を見返り、

お前は空腹なの乎。

大相、空腹です、

自然は其儘に現れ憐れなる少年の眼こには大ひなる涙だ滴たりたり、

殆んど餓んとします。

左様か、夫では内に這入つて食事するが善い、ダが先づ、

苟くも許さゝる吾が父は、彼が肩に手を掛乍ら、

お前は正當なる少年で、正當なる兩親の子か、どうだ。

左様です。

殆んど半ば怒りて裏は答へたるなり。父は更に、

お前は自分の生計の爲に仕事をするのか。

左様です、仕事さへあれば何時でも致すのです。

お前は甞て監獄に這入つたことはない乎。

イヽエ、

猛烈なる面色にて裏は驚ろき答へたり、

私しは食事を戴だきたくありません、私しは只だ御子息がお望みであり、御親切であり、私しもお好申したから留まつて居たのです、モウ私しは參る方が善御座います、左様ならッ。

想ひ起す聖書中に、左の如き句あり、

ダビデ語ることを終しとき、ヨナタンの心ダビデの心に結び付きて、ヨナタンおのれの命の如くダビデを愛せりと。

然るに今日、彼のヨナタンよりも更に憐れなる、更に助けなき余れは、吾がダビデを見出したり。左れば余は今亦た彼が手を執り、彼をして行かしめざりしなり、

少年等、モウ告別を言ふな、一處に這入れ、

父は斯く性急に言ひ遺して先づ內に入り玉ひたり、左れば余は余がダビデの手を執りつゝ、余が父の家には入り來れり。

寄書

○文苑　(四)

鈴木弘恭大人撰

水石契久　矢坂悦子

八千代へん君のよはひぞ谷川のこけの岩ほとともにひさしき

同　阿久津愛子

谷川の清き流れのさゝれ石のかずかぎりなき御代ぞめてたき

同　近藤尙子

よどみなき岩まの水の淸くして千代にさかえむ君がみ代かな

同　佐藤利尾子

千はやふる神代よりして堅磐なる岩ほをめぐる水へつきせじ

同　新泉傳子

いは間よりながるゝ水も久しきに君が千歲のほど〻知らるゝ

同　吉田甯子

いかばかり契りひさしきさゝれ石水もろともに替らざりけり

同　小能磯子

池水になれて久しきさゝれ石へよろづ代ふとも替らざるべし

同　渡邊いか子

春秋にくさ木へなべてかはれども千代も替らぬ庭のいはみづ

同　野澤みち子

谷川にこけむす岩とゆく水へきみが千とせのためしとやみん

同　小出悌子

君が代の千歲にあえてひさしきへ水と石とのちぎりなりけり

同　關たま子

よろづ世もちぎりしへかへじ岩淸水いはとみづさへ常磐堅磐に

同　木下ふさ子

よる波の契もたえぬおきの石へ人にしられずいく世へぬらん

同　横山柳子

鶴あそぶ御庭の池のきしのいしみづと共にや千代もへぬべし

同　河崎正子

動きなき千引の石にとたえなくうるゝも久し加茂のかはみづ

新報　(此の欄内自由に轉載を許す)

○森文部大臣薨去

尤も祝すべき二月十一日の早朝に於て刺れ、十二日午後十一時悲くも薨去せられたり。國家の爲に此の剛なる一大臣を失なひたるは深く痛惜すべし、然れども吾人は更に明治六年に男女同權論を主唱したるの卓論家として、又近年特に切に女子敎育に盡力せられたるの文部大臣として、太たく其の早世を憾むもの也、噫悲しひ哉。

○憲法發布の祝式に於ける女性

滿日本皆な憲法の發布を祝ひたるなれば何とて我が女性等のみ獨り其後へに立んや。先づ此の祝會に於て金を寄附したるは豪商岩崎彌之介氏を第一とす、然るに此の尤も有名なる豪商が其の名高き姓名を記るして金一万圓を寄附したるよりも

記

一金百圓也

右ハ當區に於て懇話會といふを設けられ區内の事種々御盡力下され候のみならず來十一日には特に祝賀の御催しも御座候由承り陰ながら深く有がたく存じ右ニ付少しながら前記の金子同會へ寄附致候まゝ右祝賀の内へ御加へ被下候とも又ハ通常御集會費へ御あて下され候共御送附方よろしく御取計下され度願上まゐらせ候かしく

明治二十二年二月日　出たきひ

麹町區長大河内正質様

右の如き無名の書狀に金一百圓を添へ、舊衣質朴なる一老婦が步して區役所に出で、遂に姓名を述べずして之を寄附したるものに比ぶれば、誰れか彼の一万圓を以て此の一百圓よりも價高しと云はんや。此度の祝會に於ては、先づ此一事を以て女性は十分に誇る所ろある也。扨て又た十一日の當日に於ては宮城の正門前に於て鹵簿を迎へ奉つりたる各官立女學校生徒中には、紋着白襟にて揃ひたる高等女學校生徒、質素なる洋服にて揃ひたる高等師範學校女子部生徒、及び肅然として正列したる產婆學校女生徒あり、日比谷の原には東洋英和女學校生徒が揃ひの洋服にて旗一流を翳へし扣へたるあり、櫻井女學校小學科生徒麴町區議事堂前に於て奉迎し、華族女學校生徒は同校門前に於て、女子神學校生徒はロシア公使館門前に於て打揃つて奉迎し、其他の各女學校に於ては別段日立つほどに集會せられたるを記臆せず、日本鐵道會社に於ては角力執行に婦人財囊の賞を與へたるなど、樣々の働らきあり。而して京濱間の各女學校に於ては大抵悉くそれ〴〵に感謝祝會を催うせられたり、吾人は今日(十二日)迄に報告せられたるものを左に取集めて其大畧を合報せり、此後に承知したるものは次號に記載すべし。

京濱各女學校憲法發布祝式の大畧

麻布東洋英和女學校　に於ては前に申す如くして聖影を迎へ國歌を唱したる後ち、夜に入りてより全生徒同校講堂に集まり、演說あり、文章を讀むあり、尙ほ教員生徒樣々の遊藝を盡して和樂祝賀したる由。

小石川長榮女塾　にては午前八時塾長の祈禱を以て開會し、幹事憲法發布の大意を演述し、山縣千代子生徒總代として祝辭を述べ、一同萬歲を唱へ、幹事感謝し、讃美し、終りて赤飯を食し、一同奉迎出向す。

中六番町櫻井女學校　にては午前六時半教員生徒一同講堂に集り感謝の祈禱を捧げ、其後又牛込教會に行て教會員と共に感謝したるものあり。

飯田町の明治女學校　にては午前九時植村正久夫人の主會にて開會し、島田三郎夫人聖書を朗讀し、安藤種子、高原梅子、穴山富子、吉田千代子、太田錦子、久野茂子、皆各演說し、井上直子祝文を讀み、千住千代稙子ブルータスの演說を英語にて演べ、松井滿子之を譯述し、日本人の新作歌を唱し、植村正久星野光太の兩氏各演說し、嚴本善治祈禱し、ハリス氏祝禱して終りたり。

小石川跡見女學校　にては午前十時生徒一同盛服して講堂に會し砲聲を聞くと同時に和琴を奏し君が代の唱歌をなし、御通牒拜讀して、後ち午後講堂に於て祝筵を開く。

四谷華族女學校　にては正午十二時會集し零時卅分兩陛下の御眞影を拜し一時より生徒全員紀元節の歌を唱し、次に箏(大君)一曲、洋琴二曲、箏（扶桑の海）一曲、洋琴一曲、終りて生徒全員皇后宮御製金剛石の歌を唱し、了りて御通牒を拜す。

駿臺女子神學校　にては午前八時生徒一同集會皇帝陛下及び國家の安全を祈り、憲法發布の爲め祝禱を獻じ、午後六時再び集つて式擧二祝詞を演ぶ。

築地新榮女學校　にては午後一時より教員生徒講堂に集り感謝會を開きたり。

白金頌榮女學校　にては午前八時半生徒一同感謝會を開き、後ち再び會して祝席を開きたり。

橫濱共立女學校　にては同校の研習會員專ぱら周旋して午前第六時飛雪の中に集會し、湯淺いと子主會し、國の祝てふ讃美歌を唱へ、多くの女生交ろ立つて熱心に勸話演述し、終りて君が代の唱歌を吟じ、七時半に閉會したり。

橫濱フエリス女學校　にては午前十時讃美祈禱を以て祝會を開き、中島俊子の演說ありき。之に付き同女史の來報の末に曰く妹當日の祝詞を陳べ併て妹が平素の意見を話し其歸路滿眼の國旗盈耳の祝砲一閃一聲不覺妹をして笑を含ましめたり旗影砲聲妹が眼耳に對して事珍らしきにあらず左れど今日の如く妹を歡ばせしとあらじ」吾人は特に此文を揭げて以上列表を終る。兩陛下萬歲、憲法萬々歲。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○之に付て尤も悲しむべき事

は實に言ふも穢らはしき也、先づ氷川の社前には赤坂區民奉迎所と杭打ちし傍はらに藝妓等一列に並び、烏森町の町民は山車の后に殆んど全く藝妓を埋めたるすら快よからぬに、本鄕春木座の俳優は特更に娼妓の眞似をして道中を蹈み、特に尤も甚しきは淺草區の人民にて彼の憲法奉祝の旗を第一に立て次に菊花の御紋したる旗を流し或は聖壽萬歲と祝し奉りたる旗を押行く后ろに、乍ち「吉原遊廓」「不夜城何々」と恥し氣もなく記したる旗二流を立て、最后に吉原の怪物二百餘名悉く人力車に打乘り赤き洋傘を插し、面色青白眼光澱滯して口邊に死したる笑ひを爲すもの續々として百鬼夜行の如くに進みたるは抑そも何事ぞや、此等の區民は果して淸實に天皇陛下を祝し奉りしものか、又此等區民中の有志家は果して十分なる世話を爲したるものか、天下の義人は宜しく起り立つて此等を誅責すべし。

○赤十字社に藝娼妓の加盟を許さず

日本赤十字社に於ては社運の追々に隆盛に赴むくに隨がひ、婦人にして加盟するものも少なからざる處ろ、彼の藝妓娼妓の如きは固より公然として慈善正明の事業に關係す可らざる筈のものなればとて、此程同社長佐野子よりして右に付ては紹介する者が深く注意いたすべきとなりとて各府縣の委員へ通告ありしと云ふ。實に當を得たるの處置と申すべし。

○憲　法

憲法いよ〳〵發布せられたり、其の講義は大抵の新聞紙上にも揭載せらる可ければ、婦人方は可成く注意して其講義を讀み、此の有がたき而も何人にも至大の關係ある國法を心得らるべき者也。扨て此の憲法と同時に布告せられたる議會に關する律法あるものあり、右二つの大法中より女性に尤も大ひなる關係ある箇條を擧れば、

一　憲法に於ては何如ある箇條にも男女の性によりて區別する明文なき事。

二　法律第三號衆議院議員選擧法の中ち
選擧人たるも被選擧人たるも皆な男子に限ると云ふの明文ある事。

三　勅令第十一號貴族院令の中ち
第二條に皇族の男子のみは成年に達すれば議席に列するを得とある事。
第五條第六條に國家に勳勞あり又は學識あるもの並

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に土地或は工業商業に付多額の直接國稅を納るもの、代人たるものは、其男子のみ貴族院に列するを得るとある事。

第三條第四條に公侯の爵を有し滿廿五歲に達したる者及び伯子男の爵を有し滿廿五歲に達したる後ち同爵中より選擧せられたるものは、男女に拘はらず貴族院に列するを得ると解すべき明文ある事。

此等の事は、女海の氣運更に熟する時を待ち大ひに論ずるの日あるべし。

○道德と罪惡と自殺

文第二卷の二號に元良勇二郎君の演說に係る「社會の道德と自殺との關係」と題するものの筆記あり、主も伊太利人モルセリイ氏の書に據りたるものあるが極めて面白き說なり。蓋し種々精密なる統計表によりて調査したるに、文明の進步するほど各國ともにいよく自殺する者多きところ、獨り那威のみは二十年前より禁酒條例の發布ありたる爲め年々に自殺者の數を減ずると云ふ事。自殺の元因に付て各國ともに尤も多きは、精神病の爲めなり、男女ともに精神病の爲に尤も多く自殺するが、扨て其次に尤も多き元因はと云へば男に在りては惡行なり、女にありては悔恨、慚愧、責罰の恐れなど云ふ總べて自から愧ぢたる道義上の自殺ありと云ふ、即いち女子は男子よりも道念の切なりと云ふの證據となる事。伊太利佛蘭西兩國の調査に據るに、男女ともに尤も多く自殺するものは鰥寡もしくは鰥寡にして子なきもの也、次に尤も多きは鰥寡にして子あるもの若くは未だ婚せざるもの又は婚して子なきもの也、其の尤も少なきは婚姻したるもの特に婚して子あるもの也、故に夫あり妻あり更に子あるものに至つては自殺すると極めて少なしと云ふ事。以上の道理は實事の歷々たるものによりて一々に證據立てられたる也。

○東京府會と黴毒檢查

政府が黴毒檢查病院を設置するの不道德且つ不利益なることは、吾人が夙とに強よく論駁したる所ろなりき、然るに近來時勢漸やく之を悟了したるものか、茲に喜ぶべきの一快報に接するに至りたり。即はち去十日夜府會に於て討論ありし黴毒病院費の議事に關するとあり、時事新報は尤も精しく當夜の議事を錄して左の如くに報じたり、

前日延期したる衛生及病院費(三萬千三百廿圓)の第二次會を開き衛生費中の需用費は異議なく常置委員の修正に決し直に黴毒病院費(二萬三千四百四十五圓)の項に移りたり抑も本項は前號の紙上にも記したる如く昨年閣令第十二號にて撿黴費を地方稅の支辨に屬する事となり從來設置ありし該病院に係る費用の支

出を求むるものにして前例に依り賦金を以て之に供用せんとするに在り元來此賦金の支辨は是迄も單に一時の撿黴に止らず專ら病毒の蔓延を防遏せんが爲め該病院に撿黴及び治療の兩醫員を置き每月四回或は五回各遊廓地の撿査所に派遣撿黴せしめ其有毒と認むるものは直に入院を命じ治療を施し來りたるに依り其方法を繼續施行するの見込を以て該費用を積算したるものなりと述べ先づ本項中の俸給を議し院長月給百圓とあるを常置委員は該院は警視廳が管轄したる當時の如く組織するの必要なく且つ充分の節減を加へざるべからずとなし院長月手當七十圓と修正し次の副院長一名を削除したりと報道し、角田眞平氏は此項は本年新規の者なれば番外に於て其組織の模樣を一通り說明ありたく且つ各娼妓の自宅療治を許すは何か規則上之を爲し得べからざるや併せて質疑したしと述べ、番外一番(村上警視)は元來此病院は撿黴を原素としたる者にて明治三年に英人某が橫濱に設立し夫より長崎、神戶等にも設置し同六年六月始めて東京に設立するに至れり其後同九年三月に至りて警視廳の管轄に屬し始めて吉原根津其他四宿とも一般に當時設置の警視病院に於て撿黴を執行する事となり終に一轉して今日の如く本鄕に一の黴毒病院を創設するに至りたる者なりとの來歷を略述したる末十七年より廿年に至る娼妓人員幷に受撿人員を列擧して十七年には醫員一名に付一日の撿黴四十二人八分、十八年には增加して五十七人七分九厘となり二十年には更に增加して五十七人九分に當れるを證明し斯く年々增加するも減少することなきを以て現在の組織にては稍や不充分を免れざるに付醫員外一名を增員し餘は孰れも從來と異なることなし又別に他の方法を講究したることなきも此病院を遊廓に移すは却て經費を要し且つ取締上粗雜に流るゝの恐あるべしと思ふなりと說明し、須藤時一郞氏は該院の如きを本鄕などに立派に設置せるは實に恥づべき事なり是等は廓內に置くが最も至當にして其取締上には幾等も良法あるべし吾々は此の如き事の議案に上るさへ不都合なりと思ふ位なれば況して本鄕などに設置するは以ての外なりとは思へど急變は頗る穩當ならざるを以て暫く從來の儘にし他年を期して改革を行ふべしと述べ沼間守一氏は三十一番(須藤)も發議ありしが番外は何故此病院は設置せざるべからずとの考案ありや如何なる見込あらば承はりたしと質し番外二番(筒井)は其設立は明治六年の告達に基きたるものにて撿査は其黴毒の有無を撿するに止ることなれども此黴毒をして消滅せしめんとするには一の病院を設立するより方法なしと信ずると答へ、沼間氏は其撿査は兎も角も黴毒を治療して消滅せしむるは抑も警視廳の職權に在りや若し之ありとせば癲狂院も亦管轄せざるを得ざるべし斯く申すは失禮なれど恐らくは職分外ならんと存ずるなり本員は豫て此病院に就ては意見を有すれど今日迄は警視廳の管轄に屬し容喙すべき限にあらざるを以て默止し居たりしが最早地方稅の支辨となりては飽くまで其良法を案出せざるべからずと述べ、番外一番(村上)は設立の必要は內務省の達令に基きたるものなるが已に設立して撿黴する以上は漸次消滅の方向に傾かしめざれば更に設立の必要なかるべし醫師は何れにするも不可なけれど最も思ふべきは種々の弊害の行はるゝ事なり今其一を申せば娼妓も貸座敷主人も共に其營業を熱望するものなれば往々相謀りて疵所に水銀を塗りて撿黴醫の目を掠む者などもあり若し之を放任したらんには到底其撿黴の目的を達し難かるべしと信ず果して他に其良法あらば變更するも敢て不可なけれど今日は此病院の爲め現に着々驗徵の成績を示し居れりと辨明し、沼間氏は更に又撿黴は其職權にある事として夫迄は彼此申さず唯彼等の爲めに是非治療し得させざる可らずとならば全廓に附するより致し方なし諸君如何に思はるゝか吾々が彼等の病氣までも地方稅を支辨して治療するにも及ばざるに非ずや是をしも傳染の恐れあるを以て治療して遣るの義務ありとせば虎列剌も地方稅を以て治療せねばならざるに至らん若し番外にして他に良法を見出しなば恐くはアンナ馬鹿な仕方を爲さゞるべし番外も今日此の如き議論の現出すべしと思はざりしならんと思へば一と先づ延期して熟考の時日を與へては如何と述べ、角田氏は今俄に番外に考案を望むも頗る困難なるべければ寧ろ四十番(沼間)より其抱懷の意見を提出されたしと求め、松尾清次郞氏は嘗て同院を一見し頗る不潔を懷きて種々尋問したりしも更に名說なく社會に流毒する位に過ぎざりしが今此病院を設置せずとも其取締上には病氣の間營業を差止むるも然るべく幾等も方法あらんと思ふなり四十番が何か考案を有すとの事なれば之を贊成して暫く延期すべしと述べ、佐藤正興、田口卯吉氏は孰れも兎も角四十番より其考案を提出して直ちに可否を議決する方然るべしと希望したりしが沼間氏は素より發議する積りなれど未だ其考案に熟せざる廉もあれば衆議員にして本員に考案を立てよと望まるならば隨分取調ぶべきが本員は元來娼妓などの賤きものより收稅するなどは飽くまでも打破らんと欲し居るなり兎に角一ト先づ延期したしと望み別に大なる異論も現はれざりしかば終に之を起立に問ふて此一項に係る議事を延期する事に決し唯傳染豫防費のみを議了したり。

吾人は今后四十番議員が深く考慮し、切に社會道德の上より一國經濟の上より立論して、如此き忌わしき、實益なき、越權なる病院を全廢することを發議せんを熱望す。而して吾人は今は先づ須藤時一郎沿間守一の兩氏に向つて深く其の淸潔なる言論を公にしたるを謝するもの也。

○賣淫公許全廢の機運正に熟せんとす。時正に至れる哉此の機運殆んど熟せり吾黨は實に此の好機會を看過す可らざる也。沙翁曰く機會は前頭に毛ありて后頭の禿たる人の如し、若し其の來るときに之を執へざれば最早後ろより之を抓む可らずと。

○普連士女學校　麻布本村町の普連士女學校は米國人ジヨセフ、コーサンド夫妻加奈太トロントン大學卒業學士ウヰリヤム、ライト夫婦及び海部久野等の諸氏懇切に裁縫、英語、修身、漢學等を敎授せらるゝ由にて、次第に盛大に赴くと云ふ。

○富岡製糸所の近況　上州富岡製糸所にては目下工女の數は繰糸工女三百十五人揚返工女五十人束糸工女四人撰繭工女二十五人熨斗糸工女八人手繰工女十八人合計四百十二人にて就業時間は八時三十分間にして平均一日の繰繭量は五斤五合強なるが昨今は佛國向の品を製する由なり。

○文學會　神戶英和女學校の敎員卒業生本科生の諸氏打集ふて文學會なるものを起し英文朗讀、詩歌諳誦、問答、音樂等をなし居られしが近頃亦た將に和漢文學會なるものを起さんとの計畫ある由にて當期の會長はガニング孃副會長川本辰子書記增田鶴子なりと云ふ。

○日本畫の硏究　京都同志社學院の敎師ゴルドン氏、ケデー氏、ラーネド氏、ペルリー氏等の各夫人及び息女等併せて十六名計りの外國婦人が同志社女學校內の一敎室に於て畫工竹川友廣氏を聘して昨年十月頃より日本畫を硏究せられしが此程第一回の試驗をなしたるに中々立派に出來たるよし。

○岡山孤兒敎育會　は會員千二百名計りにして當時十六名の孤兒を養育の外に六名の男兒を預り居れるが敎育は無月謝にて學校に通學せしめ衣服は四方より寄附のものを洗濯して用ゐらるゝと云ふ。

外報

（此欄內自由に轉載を許す）

○印度の聖敎感化會　印度ボムベーに於て去年十一月廿一日に集會あり、遂にゴスペル、ピウリテー、カランシルと云ひ題名の如く譯すべき社會改良の一集會を設け、アルフレッドダイヤー氏會長となり、敎師スタンズ及びグレゴリー君等其名舉書記となりたり。

○印度國賣淫條例　第百四十六號の紙上にも記したるとあるが去年十一月七日印度セーロンの植民地書記官コロニヤル、セクレタリーは同島の立法院に建議し彼の千八百六十七年に設けられたる法律第十七條を全廢すべしと申出しぬ、蓋し去年六月五日英國々會に於て議定したる法律の精神に反らひ尙ほ彼の第十七條を施行する所ろは印度國內ただセーロンあるのみとか、然るに同二十九日ガルドウイン氏より英國へ向ての電報によれば右議案は彼立法院を通過したりと云へり。

○デュマークの賣淫條例　デュマークにも亦た千八百七十四年四月十日に發布したる賣淫條例あるが、當今此の條例を施行するは同國內のコッペンハーゲンと他の一地方のみなる由、然るに今度タング氏の發議に由り之を全廢せんとするの案を議院へ差出したる處、一言の反對論もなく第一讀會を通過し取調べの爲め其の委員へ渡されたりと云ふ。

○女奴隷　此頃ろ紐育に入港したるウイスコンシン號にモルモン宗の長老等が歐洲より二十一人の少女を連來りたるが乘船してありし、然るに稅官吏マゴーン氏之を取調べたるにより全く此の少女等に分も知らせず拘引し來りしを相分り直ちに之を歐洲に送り歸らしめたり、近來の大功なりしとウーマンス、ヂヨルナルに見ゆ。

○レビット夫人　此頃到着したるユニフンシグナルに據ればレビット夫人は此頃ろアフリカのマダガスカル島に在り盛んに演說し熱心なる歡迎を受け居らるゝと云ふ。

○禁煙會議　今年パリスに開かるゝ大博覽會と共にアンチ、トバッコ、カングレッスと云ふ禁煙會議を開かんとて全世界の各國より委員を派出することと爲れり。

小供談

本號記事多くして餘白に乏しく此の欄を省く

○百人一首講義

第九回

鈴木弘恭述

淸原元輔

元輔は。深養父の孫。泰光の子なり。作者部類に從五位上肥後守とあり。後撰集の作者梨壺五人の一人にして。村上天皇の朝より後の朝廷にも仕へし人なり。拾芥抄に永祚二年六月卒七十一歳と見えたり。淸少納言の父であります。

ちぎりきなかたみに袖をしぼりつゝ末のまつ山浪こさじとは

此歌は。後拾遺集の戀部に載たり。詞書に。心かはりて侍ける女に人にかはりてよめるとあり。古歌に君をおきてあだし心を我がもたば末の松山なみもこえなん。とある意をとりてよめる之○末松山は。奥州の名所なり。君をおきての歌の意は。君をおきて他心は我はなし。若し異心があるなら末の松山を浪が越るであらうと之○ちぎりきなは。チギッタチヤナア之○かたみには。互ひに之○大意は。今更に考へて見れば。淺はかな女とも知らずして我はようマア約束したとであるナア。その時は互に涙を流して袖をしぼりつしぼりつ。決して心替りはしまい。末の松山を浪は越すまいと云たが。今はその言も反古となりて女の心が替りしは恨めしくもあり。又我はさる女とも知ずして深く契りしは耻かしくもあるとの意なり○語格は。一段切れの歌にてちぎりきなにて切れたり。さて此のきは。きしかと運用く過去を示す辭のきにて。なは歎辭のな之。則ち下の浪こさじとはといふとはより。上へうち返る格であります。

權中納言敦忠

敦忠は。時平公の三男なれども。實は大納言國經卿の子之。今昔物語に。時平國經のもとにて酒宴ありてのち。國經酒興の餘り。此母をその坐へいざなひ出で。時平公へ進られし之。其時この母の腹に敦忠おはしけるを。時平のもとにて産玉へる故時平の子に給へるよし見えたり。公卿補任に天慶五年三月廿九日。叙從三位任權中納言卅七云々。同六年三月薨卅八云々。とありて朱雀天皇の朝の人であります。敦忠の山莊は。西坂本にありしよし拾遺集に見えたり。

逢みての後のこゝろにくらぶればむかしは物を思はざりけり

此歌は。拾遺集の戀の部に載てあります。言葉はいさゝかもむづかしき所はありません○大意は。逢ひそめての後はさま〴〵に心をくだくがゆゑに。物思ひの絶ゆることは無きを。逢ひ見ての後の心を。逢はぬ昔の心に比ぶれば。昔

は物を思はざりしよとぢや。俗に欲に限りなしなどいふとを戀の上よてもいへるぢや○語格は。一段切れの歌にて。むかしはのはが指辭にて。ざりけりのけりにて結びたる格であります。

中納言朝忠

朝忠は。八雲御抄に三條右大臣定方の二男とあり。又舊註には内大臣高藤の孫。泉大將定國の子とあります。作者部類に天暦六年參議。應和三年中納言。康保三年十二月薨とあり。村上天皇の朝の人であります。

あふ事の絶てしなくばなか〳〵に人をも身をも恨みざらまし

此歌も。拾遺集の戀の部に載たり○絶てし。しは助辭ぢや。俗にツレといふ意ぢや○なくば。俗ナカラウナラぢや○なかなかに。には副詞のにぢや。古人は却ての意なりとしたれども非ぢや。ナカラ〳〵ニの意ぢや。半々の義ぢや○ざらまし。ズアリマシヤウぢや○大意は。男女の間に逢といふとか絶てツレ無つたなら。半分は人をマア恨み。半分は我身をマア恨むといふやうなヒョンナ事はなくて。何も恨みないでありましやう。さても男女逢ふといふ習ひが世にあるから恨めしいとぢや。彼の世の中に絶て櫻のなかりせば。などいへると同じ意にて詞を強くいひしなり○語格は。徒の結び一段切れの歌にてまして結べるぢや。人をも身をものもは指辭のやうなれども。辭より受たるものは歎辭の格にてはもぞもやもかものもてもにもをもともどもも。又ぞはやはかはのはてはにはをはとは。などのもも同じ格にて。皆マアと解する例であります。此のことは因に申しておきます。

謙德公

謙德公は。一條攝政伊尹公のことぢや。九條の右大臣師輔公の長男にて。右大臣攝政より太政大臣に至り。天祿三年十二月薨せり。正一位を贈られ。參河公に封ぜられし人にて。謙德公は其の謚であります。村上天皇の朝より冷泉圓融天皇の朝まで仕へ奉りたりし人であります。

あはれともいふべき人はおもほえで身の徒らに成ぬべきかな

此歌は。拾遺集の戀の部に載せたり。詞書に物いひける女の後につれなく侍りてさらに逢はずはべりければとあります○あはれとも。あはれは。心に感じてアヽハレといふ意にて。ともは。トマアなり○おもほえでは。思はれないでぢや○身の徒らには。身が徒づらといふとなれども。此所はみのいたづらといふ。一の躰言になりたるものと見るべし。す

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○縫針講義

渡邊辰五郎述
社員筆記

今日は始めてのことゆへ、先づ裁縫の始まつた事を御話し致しませう、之をかいつまんで話しますと、裁縫を始めたのは誰が始めたと、裁縫の先生に付て聞きますと、支那にて神農と云ふ人が始めて木の葉をつゞつてこしらへたと申します、日本にてはイザナギの尊の母だと申します、其縫物はどんな物を以て拵らへたかと云ふことは少しも分かりません、先づ想像する處によつて見ると、上と下と分つて居つたに相違はありません、其後衣服の格好が色々かはつて參りましたが、はつきりした事は分かりません、始め京都で織つた時は男女同樣にあつたと云ふことは皆樣も御承知の事でありませうが、其後男子のはツヽツポーであつて、ヅボンの太いやうな袴の狹き樣なものだと云ひます。

應神天皇の時に女工を雇ふて、夫から漢風に爲つたと云ふことでありました、其時分から上と下と同じにして、其時分から今の衣服は寢衣であつたと申しました。」今の若物は流行は餘程違ひました、足利時分とあつて餘程違いました、長袴、大紋と云ふものを用ゐました、長袴は其丈け五尺ばかりもありました、大紋と云ふは袖の幅は二尺位でありました、其では不活潑だと云ふて大紋は袖を切り、長袴は裾を切つて前の方へ二つ四つのひだを取つて、上下として武家の大禮服としました、其後羽織といふものが出來ました、之れはちりほこりを拒ける爲に羽織を用ゐましたが、此後羽織袴が通常禮服になりました。

徳川の瓦解のまへ、男子が今迄の服ではいけないと申して、レキション羽織、三サイ羽織なんど、袴はダン袋ナドいろ〳〵のかたちをつくつて背中へは白き紋などつけてしましたが、只今では大抵西洋服に一定致しました、今御婦人方の風によつては和服は改良しなくつてはいけないといふ説が行はれますが、それは男子に服の三十年ばかり前にあつた變化にて、今より女子の服も次第にかわりませうが、今の男子の服の三十年後に一定したやうに、婦人の服は何年たつたら一定するか分かりません、西洋にても今より二十年前にやうやく一定したといふことにて、一時は政府より一樣にこしらへ出せし事もあり、又西洋には衣服改良會などの立つて居るといふ事は聞きましたが、格好が惡るいとか申ますが、容易に分かりません。

私は師範學校や高等中學大學の生徒の服をこしらへますが、

窮屈でも格好のよいのを好んで衛生には少しもかまいません西洋でも此の様で、改良會の仲間は醫者學者新聞記者などであつて、商人は格好の善いのを好みます、一躰西洋服は窮屈でありますゝ夫故に女子にはましてゝあります、其ゆゑ二階から落こつて度々けがをするとがあります又寒いのを堪らいて居るゆゑ氣絶するともあります、故に洋服も其まゝに用ゆるとは感服致しませんが、先づ衣服の變わりは此の位に致しまして、是から敎へるとに付て話します、私は一週一時間位いゆへとても充分おとは出來ませんが、先づおらましを段々にお話し致します。

夫れ裁縫の仕方は、第一。持ち方直進運針方、が自由になりませんと、早くこしらへるとは出來ません。

先づ右の指の中へ指ぬきをはめます、其中央へ針を立てゝ左右に自在に振るとが出來なければだめです、これが上手でなければ奇麗に出來ません、たとへて見れば家を建る時と同じ様で風が吹くと倒れます、ツーして腕を動かすとです、手先でばかり動かしても縫時は直に勞かれて隨て目も痛くなります、肩をはらし目を惡くする人は遣い方をしらぬゆへであります、腕から動かしてしますれば却て肩のはる事が直ります、目を眠つてしてもマツスグに出來ます、針目もすきにできます。

絹物だと心配して縫ふ人がありますが、運針方がよくできれば少しも心配する事はありません、之れは裁縫の處方の大切な所です、昔し私が小學校で裁縫を敎へる時、一尺の切を以て少しも針目にはかまわず無暗に早く縫はせました、其れがもう少しできてきますと、一時間にきれを二重にして二十度ぬわせました、其から三重にして針目を一分にして三十度、四重にして四十度、このやうにしてだん〳〵なれてきますと一時間に一尺の切を百度のろくて二十度位でありました裁縫の運針方をよくする時は人が一枚こしらへる處五枚もぬうやうな相違があります、其ゆへ運針法の大切なる事は、年をとつても後れても、長くやつても運針法をなさるがとくであります。

其次に裁縫をおしへる時、衣服の名稱を敎へる必要であります、そうすれば先生一人で數多の生徒を敎へる事が出來まして困難はありません。

もはや運針法も出來てきて、襦袢のたち方、縫方、つもり方實際にかゝる時は、其順序を知つて居る故背をぬいましても

一々濟してゆく事に候と答へたり、其通り凡て家財道具にても用ひ終ればぢきに掃除して元の處に置、一ッの用事出來たれば心を盡して之を處置し決して他日に延す事勿れ、衣服を着替へたる節はぢきに摺んで簞笥の內に入れ、一物も順序なく室內に散亂せぬ樣心掛る事大切なり、

三、愛情あるべきと

三。 愛情あるべき事。 一軒の家、間取建付用材万端申分なく出來上り、家具も裝飾品も充分にても、室を暖むる工夫を欠かば住むに堪難かるべし、右の如く一家の人々皆順序正しく、誠にまめやかに又眞實であるも、あふるゝ許りの愛情行はれて、一家族を暖めなければ未だ幸福の家族とは申難かり、先一家をつべたくする者の長本とも申べき者は、我儘なり、自分勝手なり、利己主義なり、家の人々が名々我儘であれば寒中に火のない家に同じ、凡て我儘な人といふ者は、人の愉快を殺て己れの愉快を增そふと考へ、又は人の不便をかまわず自分の便利さへよければ可なりといふ主義なり然しよく考へて見れば、世間の人が其人達の樣に自分の事許り考へたらば、いかで其人達が我儘勝手をなす事を得べき、なぜなれば外の人も其人達の不便不利を顧ずして自分等の便利愉快を執らんと務むればなり、夫故に我儘の人は決して幸福のなき者なり、滿足の出來ぬ者なり、一年中自分勝手をやつてはやりそこない、どれで最早滿足なりといふ時はなし、我儘の人は假令へば熱病に罹つていながら宴會に出て腹一杯御馳走を食べやうと試むる人の如し、自分は其御馳走を食べて愉快を執らふと思へども、肝腎の味をつかさどる舌がくるつておる故、ちつとも甘いと感ずると出來ぬ故に我儘を仕遂て見てもほんとふの愉快はないと察せらる、凡そ此の世に在て吾々の最も幸福と思ふとは互に愛するとである、而して此愛の爲には、隨分自分の利益も便利もかまわずに、愛する人の爲にせねばならぬと多し、

四、樂しむべき事

四。 樂しむべきと。 詩人シエクスピーア翁の言にも

樂しむ人は徃くべき場所に達するに、悲なしむ人

は一里にて疲る。

と申して、人間が此世に生存してある間は、決して面白きことをかしき事ばかりあるものでなく、榮枯盛衰有爲轉變は世の習にて、昨日の喜も今日の悲と變り、愉快極まれりと思へば忽ち悲歎すべきとあり、それゆえに古人は此世を旅路に譬へ、吾人其中に住むものを疲れたる旅人になぞらへたり、されば此世に在て重荷を負ふて旅する役に當られたる吾人は、つぶやいたり、又は不平を鳴して渡るときは、其重荷は益々重く感ぜらるゝなり、已に此重荷を脊負ふて渡らねばならぬなら、何をか悲しまん、何をか恐れん、たゞ喜び樂しんで其日を過すべきには非ずや、凡そ不平だとか、つぶやくとか申すとは慣習にあるものにて、始終ものに滿足しない人は、一年中是はと云ふて心を喜ばしむる事に出會わぬものなり、所謂過度アラを拾ふて、それを喋々して樂とするものなり、誰か友人でも來て、或る人の事を譽めるときは、「イヤかれには斯樣な惡い事がある、だから其位のイヽとは取るに足らぬ」とはね付けて仕まい、此品は實に上等品だと云へば「イヤ何處そこにはモット上等な品を賣つて居る」とか、万事万端が其樣な氣風になると第一、人には嫌はれ、自分とても何時も喜ぶとがなくて、誠に損な性分と申すべし。

つぶやく性質の娘

或處に二人の娘と三人の男子を持つ、母親ありけり、妹なるはな子は姉さと子に引換へて至てつぶやく性質の娘子なり、夏の始にありければ、母親は二人の小娥の爲に丹精して、新しき單衣を調製し着せ、誠に喜ばしげに見えけるに、妹はなれ例の通り直に、

御かつさん、マー、御覽なさい、此着物を、摸樣も何だかいやだし、身幅もせまいし何だか丈も短ひ樣だわ、わたしはもつと良い摸樣の單物か欲しいわ、母親さん、學校の組の人は誰だつてこんな着物を衣て居る人はないわ、

と不平を始めければ、母親は苦い顏して

そんなにぐず〳〵云ふものではありません、早く徃て朝飯を御あがり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

お雪が漬物の壓石を揚るのですら、權助の手傳ひを頼む事がある、况して世の中に協力がなかつたならば橋も架られない、鉄道も敷れない、鑛山も掘れない、其他職業に協力の必要なる事は、餘り幷べ立るにも及ない、

袷せの裏地に一反の金巾を買つて來た、一反の裏地といへば至極手輕ひ樣であるが、其由來を聞けば中々込入つた次第である、ズット最初は、米國のヂョルヂヤの畑へ蒔た種が、苗となり、綿となり、之を港へ持出して大洋を渡りて、英國のリバープールに陸揚けを爲して、マンチエスターに送つて金巾に織り、ロンドンより積出して又も萬里の波を遮り、横濱に着し、問屋、染物屋、呉服屋、の手を經て始めて裏地となつた事である、其間之を運ぶ人、之を製らへる人、之を商ふ人、又之を運ぶ機械、及び之を製造する機械を製らへた人までも調べ出せば、一反の裏地でも何百人の歐洲人の協力に成たか譯らない、其代り日本よりも、亦同樣の手數を經て絹を輸出する、萬國の間柄につひて見るも、協力の必要なる事如斯である、况して日本國内に在つて、互に協力するとの必要は幾干ぞや、北海道から内地へ肥を送れば、内地からは北海道へ綿を送る、大工は醫者の屋根を直し、醫者は大工の病を療す、其他各自の商賣といひ、職業といひ、皆な協力の必要から成立つたものである、先きの分業といふ事も、詰り復雜協力の一小部分に過ない、

勞力協同と殖民地

ウエークフ井ールド氏は、右の理由を殖民の說に及して曰く、新き土地へ殖民をせんとする時には、成べく市街より餘り離れない處へ置きて、二百軒なり三百軒なり一處に集め、所々へ散らばらぬ樣に氣を付ねばならぬ、若しも彼方に一軒、此方に二軒と離れ、且つ市街よりも隔つておる時には、互に貨物を交換するといふ事は大變不便利であるから、自ら協力といふとが少くなり、米は自分で作つて食ひ、衣服も自分で織り、味噌も、醬油も、自分で製らへ、個々獨立といふ姿に成た日には、澤山働ひても格段の望も報酬もないから、奮發勉

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

勵といふ事は無なり、商賣も行はれねば、殖產も進まない、之に反對し若し市街の近傍であれば、殖民地と市街とは直に協力を生じ、殖民地で出來る產物は之を市街に送り、市街の貨物は之を殖民地へ運ぶ、ソコデ賣買も興り、殖產も盛になり、生計の度も進んで幸福の增すとである、之によつて見るも一國の運輸を便にすれば、一國の富を增す事も明なり、

サテ又勞力のみならず、財本を合せて使用する事、即ち合本といふ事も必要である、醫者が百圓の貨幣を儲け、妻君が五十圓の貨幣を蓄たればとて、之を以て一箇の商業を營み、或は製造に從事するといふ事は出來ない、然しながら之を以て、會社の株劵を買ふか、貯金局へ預れば、茲に澤山ある貨幣が集つて、大なる財本となり、世に有益なる事業を興す、ソコデ始めて生產的に用ゆる事が出來る、委細は前の財本の章を御覽なさひ。

第六章　大量及小量の生產

職業及商業は、大仕掛けにするが利があるか、小仕掛にする方が益があるか、即ち大量小量の生產、孰れか大なりやといふ問題は、誠に必要である、

大量製造ノ利アル所以

智識が進步して、機械の發明が多くなるに從ひ、製造の業も日を追ふて大仕掛けとなる、糸の如きも、以前は一本宛手から捻り出したものであるが、今は蒸氣機械にて、千筋も一萬筋も一緒に操り出す、その以前に比べて利益ある事は、勿論の事なるが、其仕掛は何れ程まで大きくするが利益あるか、即ち糸操器械は、三千の紡を掛るが宜きか、五千が宜きか、一万かと問へば、成べく大仕掛にする程利益が大ゐに相違ない、ナぜといふに、先にも述し通り、職工が多ひ程分業の種類も多くなるのみならず、職工五十人でも百人でも、之を見張る所の監督人は、其割合に多くはいらない、蒸氣機械が五十馬力でも、百馬力でも、器械方の注意は同じ事である、其外仕掛けが大きければとて

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

社告

愛讀者諸君へ申す

女學雜誌代金御拂込の節は東京芝口郵便支局へ向け爲替御振込み被下度願上候

二月

女學雜誌社

宇川盛三郎主筆

行政學叢誌

第一號　紀元節發行

（一）毎月一回發行
（一）定價一部十錢
（一）全國無遞送料
（一）見本郵券十錢

- 社說
  - 發行ノ趣旨
  - 憲法ト行政法トノ關係
- 講義
  - 行政法汎論　宇川盛三郎
  - 府縣會規則　宇川盛三郎
  - 市町村制　宇川盛三郎
  - 徵兵令　宇川盛三郎
  - 監獄則　宇川盛三郎
- 時事
- 記事
- 行政事件等

發行所　東京牛込區神樂町二丁目六番地　**行政學叢書社**

女子敬愛學校生徒募集

本校ハ主トシテ和洋服裁縫編物及ヒ英語學ヲ教授ス

但シ時々脩身學及ヒ婦女日常ノ心得ニ就キ口授スルコトアルベシ亦タ漢學數學ノ教授モ生徒ノ望ニ應ス

芝區兼房町十三番地　**女子敬愛學校**

交詢案内

（郵券十錢を添へ投書あれ　掲載すべし　雜誌に出しやれ）

●雇ひたき方（甲）

十二　下婢　年齢廿歳より五十歳迄の基督信者を雇入度者あり

十四　裁縫　年齢廿才より三十年までにして家内の手助となり裁縫を心得たるものを雇ひたし可成は基督信者を望む但し地方なり

十五　召使　家内の手助けとなり小兒の世話をなすべき年少女子を雇ひたし尤も基督信者なれば雇ひたき思あるものを望む

十六　召使　市に一個の小商及裁縫等にして家事の手助けとなるべき年少の女子を雇ひたき所あり但宿舎は御内なり

十七　下婢　二十歳前後の給水の方を取る下婢を雇ひたし或家にて家族五人日本はひまなり月給は一圓以上

十八　下婢　年齢廿四五才にて裁縫並に數學和字等を閑暇の節は教授すに付き無給にて雇ひ入れたし但し基督信徒ならば教會ニ行くも家内同様にすべし

●雇はれたき方（乙）

六　奉公　地方師範學校卒業生にて學費に困むに就ては可成西洋人宅にて來入協力勉學致度に雇ハれたき一娘あり無給にて何地にてもよろし

七　裁縫　年齢廿三にして家内の手助けとならんが爲め內職に裁縫に雇へれ度き者あり其他は宜しきか新家ならば大家のかたき內にて家事都合ならば雇いても宜しとの事其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し

十三　教師　栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御內にても教授の雇はれたきものあり可成くは麹町か駿河臺邊を望む

十四　洋行　自ら確なる十八歳位のものにて英語學も可なり出來るものにて學問研究の爲め貴婦人の歐米に航せらるゝ御方の小間使ひとなりて洋行を願ひたし

一九　召使　裁縫の教授を爲にし其他女子學校等監督部留守居様の者に雇はれたし

二〇　裁縫　年齢十四才にて揃の僕か或官員方の御方之内ニ小間使に雇はれたし最も裁縫に授けくだされば給料は不申受

二四　奉公　年齢廿二才にして一と通り裁縫もいたし丈夫の生れつきにて華族様か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は望問以下に願ひたし

二五　裁縫　裁縫は勿論婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他紳士の御內に教師に雇はれたし

二六　學婢　學問熱心なれども資金にとぼしきを以て學校又は命婦方のお付きにて餘暇に勉學したき年少女子あり無給にてよろしと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

通俗帝國憲法釋義

●全一册正價十二錢●遞送料四錢

帝國憲法發布に付き平易明細に其解釋を付し本月十五日に製本落成發賣致候間望の者は御申込あれ

東京神田區雉子町 團々社書店

同志社大學寄附金（二月十一日迄）

金五十錢也	東京麹町區元園町	宮島まさ
同十錢也	同	同　可次郎
同十錢也	同	同　親三
同十錢也	同	同　ひで
金五圓也	東京日吉町女學雜誌社	巖本善治
金一圓也	東京飯田町明治女學校	木村祐吉
金五十錢也	同	八木雅辰
金五十錢也	同	松田龍方
合計	七圓八十錢也	

鈴木弘恭大人著 **文法口授** 一册 正價十六錢 郵稅四錢

右は從來跡見女學校、明治女學校、成立學舍女子部、頌榮女學校、長榮女塾等の教科書なりし處ろ此度亦た**高等女學校**の教科書に用ひらるゝこととなり尙又先頃より**第一高等中學校**の教科參考書に用ひらるゝことゝ相成りたり、文法を教授するには甚はだ適當したるものとの公評を蒙むり居り候に付き此他の各學校に於て可成く御使用下されたく願處に候

東京日吉町八番地 女學雜誌社

發兌

二月。	二日	九日	十六日	廿三日	
三月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
四月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
五月。	四日	十一日	十八日	廿五日	

定價

一册。六錢 郵稅。一錢（但府內外郵稅）

十册。五十八錢郵稅。十錢（同前）

半年分	一圓四十三錢	府外は	一圓六十九錢
一年分	二圓六十錢	府外は	三圓十二錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲ぐる場合に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行	一回	（廿七字詰）	前金拾錢
同	三回以上		一割引
同	六回以上		二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す。有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く。女學に關係ある書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1,69 six months, *yen* 3.12 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殷々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町長明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町修春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文求堂○横濱日吉町角田兮貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入濟集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町本村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早造社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原綵町石藩堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目榮園堂○熊本文明堂

明治二十二年二月十五日印刷
明治二十二年二月十六日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

HQ
1204
J914

Feb 23
1889
no. 150

女學雜誌

一冊六錢
當府内無郵税

版權所有

各土曜日出版

明治廿二年(第百五拾號)二月廿三日發

社説
姦淫の空氣、不純潔の空氣

論説
英米女子高等教育大勢(其二)(け、うさき)

批評
森有禮君の「妻妾論」

叢話
グラッドストン夫人の誠實○奴隷を教育したる美談○小兒の姆の事(尾夫人)○母妻論

小説
理想紳士第四回(月の舍しのぶ)

寄書
明治二十二年二月十一日紀元節に京都なる同志社といへる學びの舍にて憲法發布の祝會を開きける時(津田久之)○文苑(五)(鈴木弘恭大人撰)

新報
皇室典範○皇族に於ける男女の別○女性の服は貧家にあらず○嫡庶○酒の振舞を禁じたる美談○女學雜誌類の發兌高○女は男よりも丈夫なり○風俗畫報、美術園○佛蘭西の女職工○癡人慈善院○女子の輪講○女子の洋行○外數件

外報
ラマバイ協會○レース○費府女子醫學校○外數件

小供談
針箱と鏡台

附錄
百人一首講義○婚姻說○經濟學

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY